

発行日 平成30年3月
発行所 一般財団法人 つくば都市交通センター
〒305-0031
茨城県つくば市吾妻1-5-1
Tel 029-855-7211

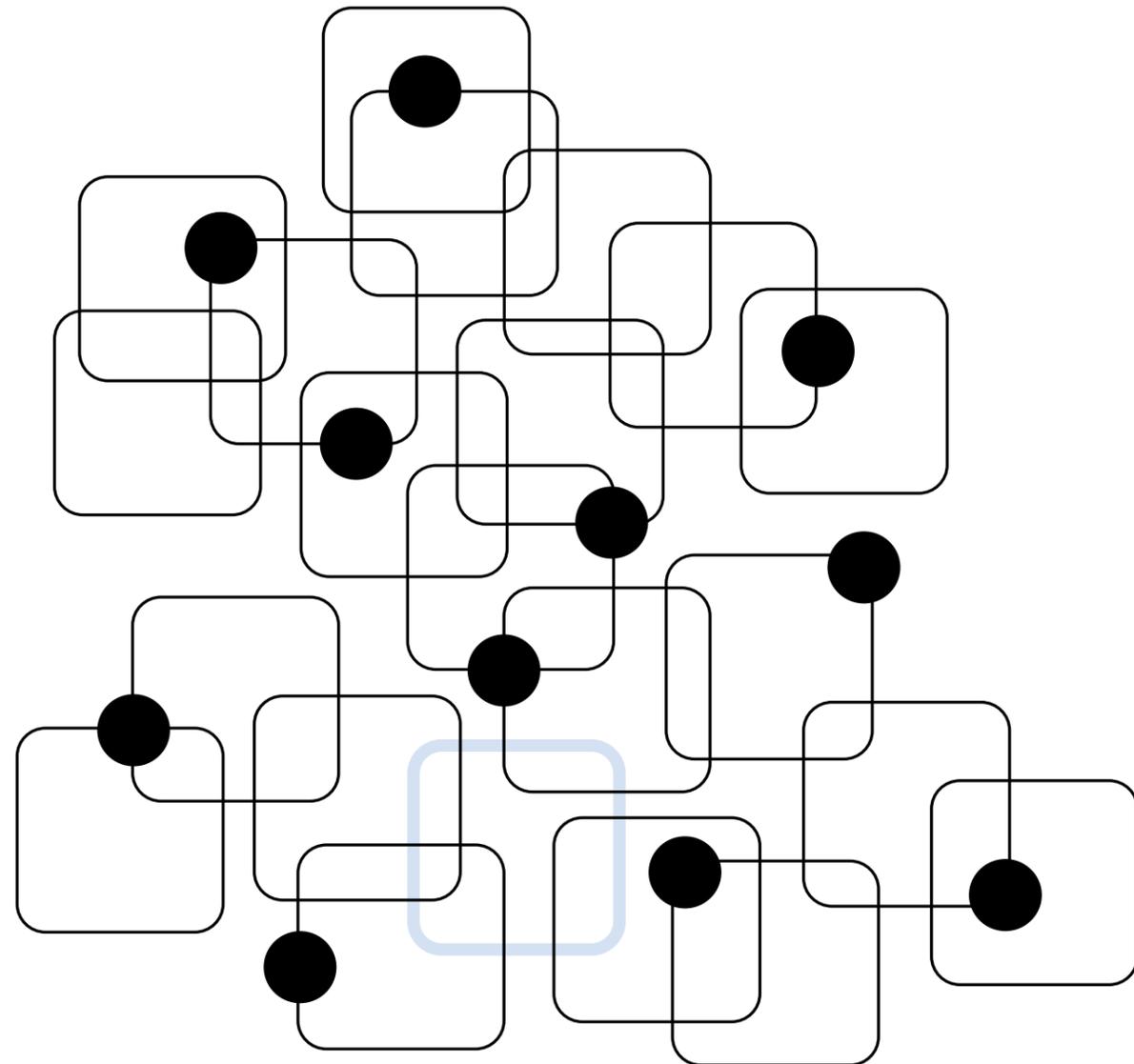
TUTC Library

Tsukuba Urban
Transportation Center

一般財団法人つくば都市交通センター

47

平成30年3月発行
Published
in March 2018
by Tsukuba Urban
Transportation Center



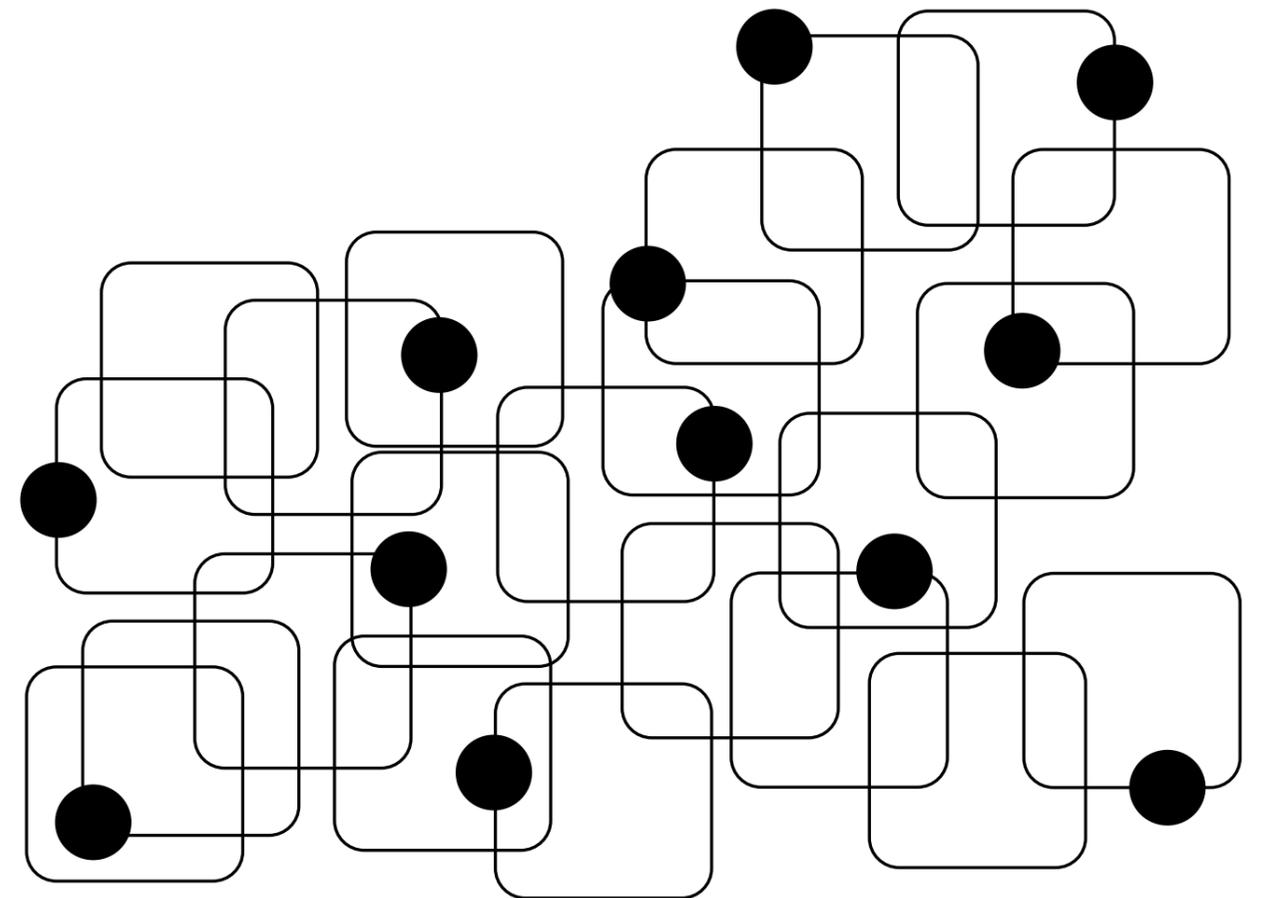
小空間のデザインと実践

—プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの活用を考える—

小空間のデザインと実践

—プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの活用を考える—

一般財団法人 つくば都市交通センター



小空間のデザインと実践

—プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの活用を考える—

目 次

第1章	つくばの小空間とプラザ・パフォーマンス・ギャラリー	
1	主な小空間の現況.....	1
2	プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの取り組みと課題.....	8
第2章	プラザ・パフォーマンス・ギャラリーのリニューアルのねらいと そのデザイン	
1	リニューアルのねらい	39
2	リニューアルのデザイン	47
第3章	プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの今後について	
1	認知度向上策.....	67
2	新たな取り組みの検討	76
参考	プラザ・パフォーマンス・ギャラリー利用規約	79

はじめに

つくばセンター地区では、西武筑波店が昨年2月に、また、イオンつくば駅前店も本年に入って閉店となりました。また一方で、大型マンションでは好調な入居状況が続くなど、大きな変化が起きています。

当財団においても、駐車場利用者が買い物客を中心に減少しており、賃貸施設でも閉鎖・出店の動きが出てきています。そうした中で、センター地区や周辺地域の動きをより適確に把握して新規施策を進めるとともに、駐車場や賃貸施設の利用者にこれまでと変わらない安心・安全・快適さ・使いやすさの提供に努めているところです。

また、当財団では、つくば市と連携したセンター地区の歩行者・自転車の交通動態調査や来街者アンケートの実施、市民協働による音楽祭開催の支援、つくばセンター地区活性化協議会への積極的参画など、センター地区の活性化、賑わい創出に寄与する取り組みも進めています。

その中には、30坪ほどの小さな空間ではありますが、「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」という半屋外空間における取り組みがあります。本ギャラリーは、商業施設つくばクレオスクエア・MOG（モグ）の1階に位置する空間で、買い物や通勤の合間に一息つける場所として、また、地域活動の発表、展示の場としてもご利用いただいております。

今号のTUTCライブラリーにおいては、このプラザ・パフォーマンス・ギャラリーを取り上げ、駅前、都心の小空間のあり方、活用方策などを考えてみました。

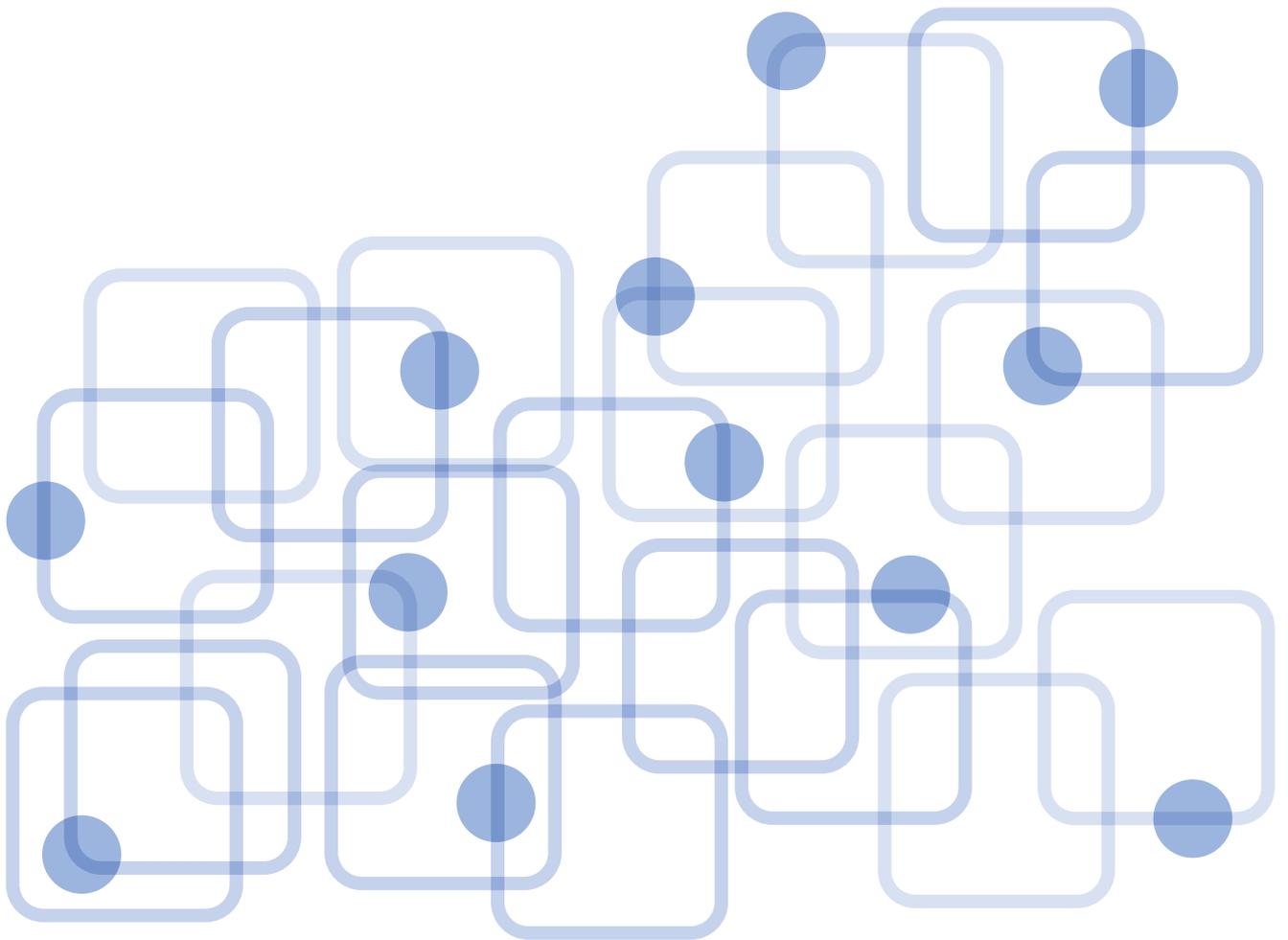
本ギャラリーは最近リニューアルを施しましたが、リニューアルにあたっては、筑波学院大学の高嶋啓准教授に空間デザインをお願いしました。さらに同大学には、授業の一環として学生の作品発表を行うなど積極的に活用してもらっています。このようなことから、今号においては、同氏に一つの章をご担当いただき本ギャラリーにおけるリニューアルデザインのねらい、また、今後の可能性と活用方策などについてお考えを展開していただきました。

当財団は、今後ともセンター地区の活性化に貢献できるよう取り組んでまいりますので、本ギャラリーの活用のみならず、センター地区をより魅力あるものとするためにご意見やアイデアなどお寄せいただけましたら幸いです。

平成30年3月

一般財団法人つくば都市交通センター
理事長 宮本 保宏

第1章 つくばの小空間と
プラザ・パフォーマンス・ギャラリー



つくばの小空間とプラザ・パフォーマンス・ギャラリー

1 主な小空間の現況

つくばセンター地区では相次ぐ大規模店舗の閉店により、その空洞化が懸念される中、各関係主体では活性化のための様々な取り組みを行っています。

センター地区の空間の特徴として、賑わいの中心となるセンター広場とそこから縦横に張り巡らされたペDESTリアンデッキ（歩行者自転車専用道路）が挙げられます。このペデなど公共空間を使って、つくば市は「つくばペデカフェプロジェクト」を始動させています。現在の都市空間を最大限に活用して、イベントやオープンカフェ、移動販売車によるマルシェなどの実証実験を重ね、今後もプロジェクトを推進していくことが期待されます。



つくばペデカフェプロジェクト「つくばセンターマルシェ」



つくばペデカフェプロジェクト「つくばクラフトビアフェスト」(センター広場)

このように、地区の活性化のためには、充実した既存ストックである現在の都市空間を最大限に活用するという観点がこれからますます重要になってくるのではないのでしょうか。

既存のものを見直したり、ちょっと手を加えたりしてみる。新たな視点、考えで活用してみる。そこを訪れる人や、そこに住む人たちのニーズとずれのないような取り組みが求められているのかもしれない。

既存のものといっても幅広くなりますので、今回は特に小スペースに焦点をあててみたいと思います。小さいながらも、そのまちにとって大事なスペース、いろいろな情報を発信していたり、気軽に休憩できたり…。

まずは、つくば駅前周辺の主な小空間をみていきます。

(1) BiVi つくば

つくばエクスプレスつくば駅前にあるBiVi つくばは5階建ての複合商業施設で、各種店舗のほか総合インフォメーションセンターやバスチケット売り場などがあります。

そして、2階にはペデ側面に面して出入口に面してイベントスペースが設置されています。広さ15坪ほどで、ふだんは休憩スペースや待合場所などとして誰でも利用でき、フリーWiFiスポットにもなっています。



BiVi つくば イベントスペース

そして、ここは施設管理者の了解を得た上で、イベント等開催のための利用も可能になっています。

様々な催しが行われていますが、子どもを対象にしたものでは、クリスマスツリーやハロウィンの帽子をつくるワークショップなどが人気です。

また、当財団がまち育て事業の一環として支援している市民活動団体「音の宝箱つくば」もここで月1回の定期ミニコンサートを開催しています。

この音楽イベントの特徴は、出演者がプロ奏者や音楽教室の講師、またアマチュアでもかなりの腕前の方などで、入場無料で質の高い音楽を楽しむこと。エレクトーンパフォーマンスのほか、ギター、チェンバロ、サクソフオンなど様々なジャンルの奏者が登場しています。



音の宝箱つくば Bivi コンの様子（イベントスペース）

BiVi つくばには、このほかにも、つくば市の運営するつくば総合インフォメーションセンター（交流サロン）があり、この交流サロンは、つくば市内の大学や研究機関の様々な情報を発信するセミナースペース、市民が気軽に交流できる場所として利用されています。



つくば総合インフォメーションセンター（交流サロン）

ここを会場にして開かれているセミナーの中には、研究機関が行う研究成果の発表に多くの人に気軽に参加してもらおうと、飲み物持ち込み自由で参加者と一緒に議論、雑談しながら加わることができるよう工夫されたものもあります。

また、つくば市と筑波メディカルセンターの共催による「つくば メディカル塾」は、中高生が対象。「検査になくてはならない医療機器—超音波でからだの中をみてみると—」「病理標本を観察して病気を診断する—君は見分けられるか、がん細胞の顔つき—」などのテーマで、実際の機器に触れたりしながら診断トレーニング等を行っています。

将来の職業選択のきっかけや目標達成のための活力になれば、ということですが、こういった取り組みは、まさに「つくば」ならではのものです。

つくば メディカル塾の様子 （交流サロン）



病理標本の観察



超音波を当ててみよう

(2) つくば市民ギャラリー

つくば駅前にある中央公園。公園内のレストハウスの一角にあるのが、つくば市民ギャラリーです。

約 140 m²の広さに、25 枚の回転式展示パネル (202 cm×113 cm) と 6 枚の固定式展示パネル (140cm×140cm)。机 9 脚、いす 22 脚の備品も揃えています。



美術等の作品発表の場として市民に貸出を行い、多くの展示会などが開かれています。定期的にご利用している市民団体もいるなど、市民の文化芸術活動の貴重な発表の場となっています。



市民団体による美術展の様子

市民ギャラリーに関するお問合せは、(公財)つくば文化振興財団まで。
(TEL : 029-856-7007)

(3) さくら民家園

同じく中央公園内にある古民家。江戸時代後期の建築といわれている市内の家屋を、昭和 59 年に寄贈を受け、移築したものです。

筑波地方の典型的民家であり、筑波研究学園都市の開発が進む中、「伝統と開発の調和の象徴」として位置づけられ、社会教育施設「さくら民家園」として整備されました。

約 1,980 m²の敷地に復元された母屋の建築面積は約 155 m²。



年間利用者数は、昨年度 6 千人を超えました。市民に限らず誰でも無料で、お茶会、おはなし会など様々な目的で利用され、文化交流、世代間交流の場としても役立っています。



2～3 月には大正時代から昭和初期の間に製作されたといわれているひな飾りの展示があり、また、最近では小学校低学年の社会科見学などでも活用されています。

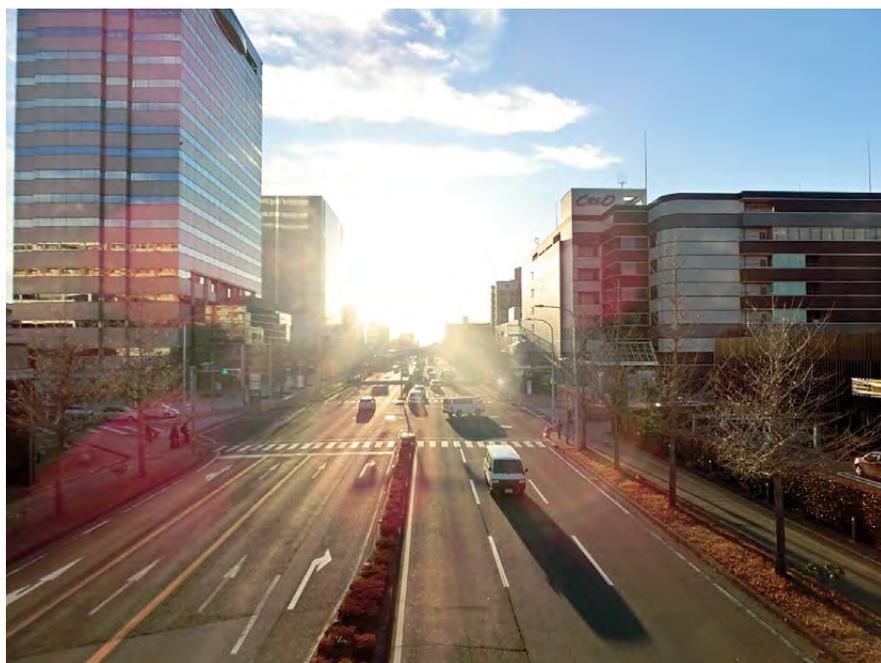
2 プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの取り組みと課題

(1) 設置の経緯

①つくばセンター地区の完成

筑波研究学園都市のセンター地区整備は昭和 55 年頃から始められ、つくばセンタービルや商業施設クレオ、交通ターミナルのつくばセンター交通広場など核となる施設が数年の間に次々と開設されました。当財団も昭和 63 年に設立され、第 1 号の立体駐車場・南 1 駐車場（当時の名称は、つくば西駐車場）が同年にオープンしています。

短期間で都心の様相を呈していくことになり、昭和 60 年の科学万博開催も契機となって、多くの人々がセンター地区を訪れることとなります。



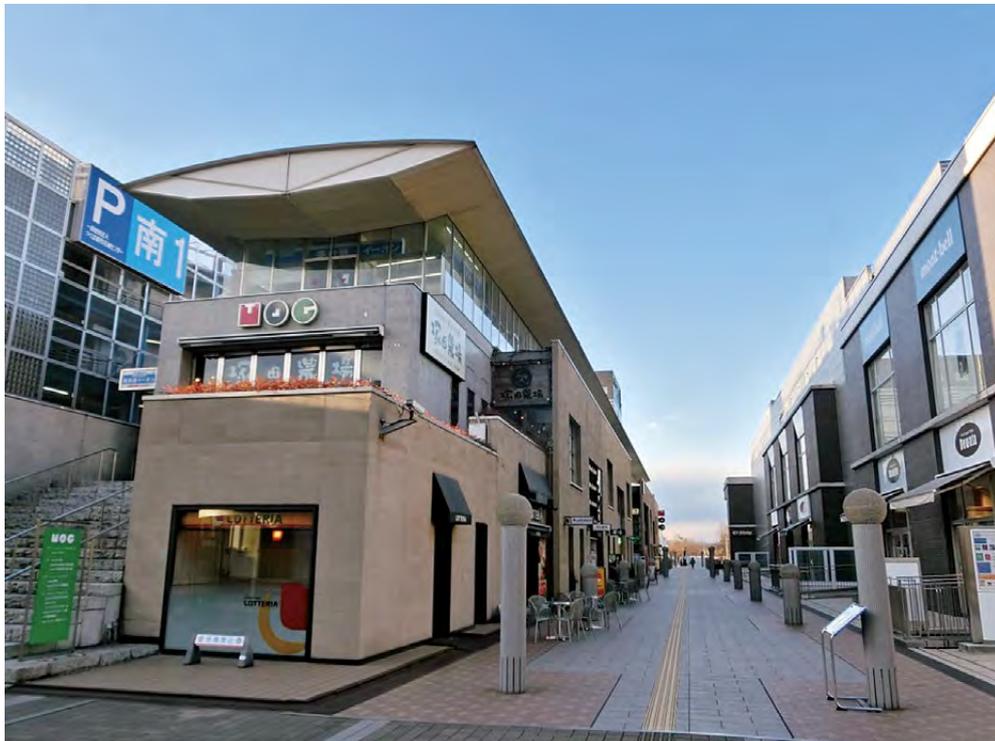
土浦学園線にかかる「さくら大橋」から撮影

「つくばに、このような最先端のまちが出来た」というのが代表的な街の声でした。ただ、その一方で、「コンクリートが多くて、街区が大きい。まちなかで、ちょっと休めるところがほしい」というような声もありました。

②プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの設置

プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの開設は、平成 17 年 10 月（当時の名称は、プラザ・パフォーマンス）になります。

本ギャラリーが位置するのは、商業施設 MOG（モグ）の 1 階中央部分。MOG は、クレオ、Q' t（キュート）とともにショッピングモールを形成する、「つくばクレオスクエア」の一角を占める施設です。MOG は当財団の南 1 駐車場と隣接しており、双方の建物間でお客様の往来をしやすいするために、MOG1 階の中央部分とその上の 2 階部分が当財団の所有（土地面積約 164 m²）となっています。



左から、南 1 駐車場、MOG、 Q' t（2 階 ペデから）



左がプラザ・パフォーマンス・ギャラリー、右がQ' tの宝くじ売り場

そのMOGがオープンしたのは平成5年10月。1階中央部分には大きな樹木が植えられ（現在は撤去されています）、ちょっと一息つけるような場所として皆様に使ってもらっていました。

その後、平成17年につくばエクスプレスが開業し、その数カ月前にはMOGの向かいにQ' tがオープンします。付近も人通りが多くなったことなどから、交流広場「プラザ・パフォーマンス」として一般貸出を開始しました。

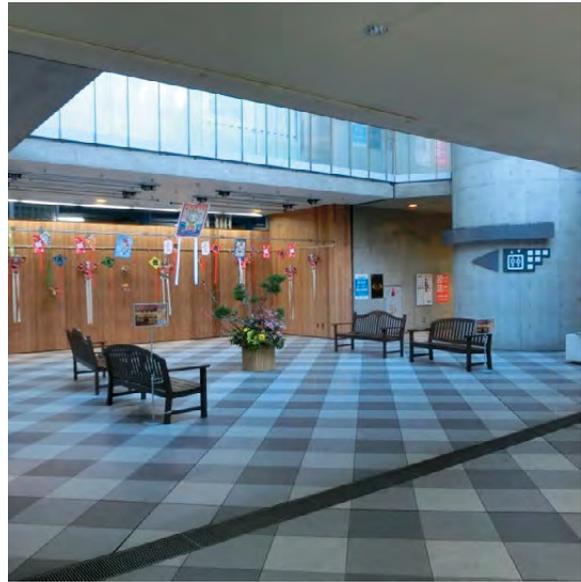
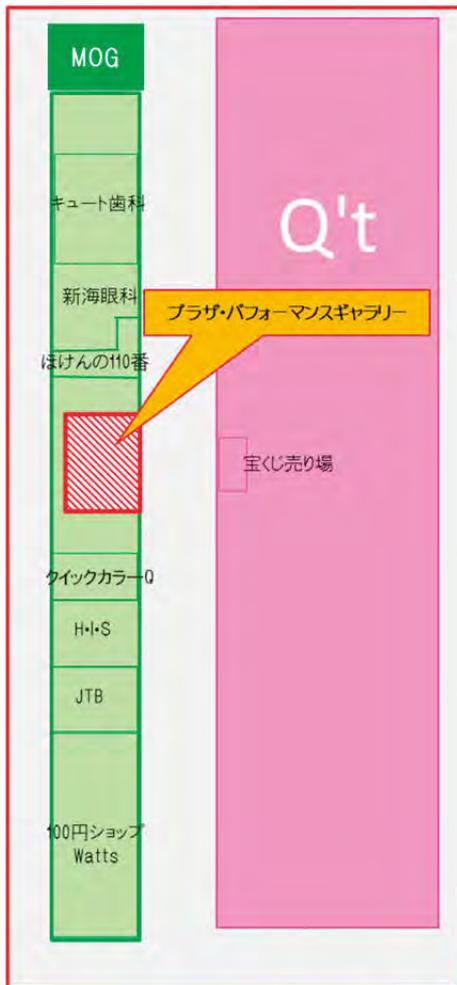
「個人、グループ、店舗、企業などの皆様が、自由な発想と創意工夫のもとに自己表現し、交流を深める場として活用を」と広く呼びかけ、これが名称の意味にもなっています。

利用料金は、1日利用で2,000円（休日3,000円）、3.5時間単位のコマ割りでは1コマ1,000円（同1,500円）ですが、公共団体や地域の活動団体、個人の発表展示等で営利を目的としない場合は無料にしています。

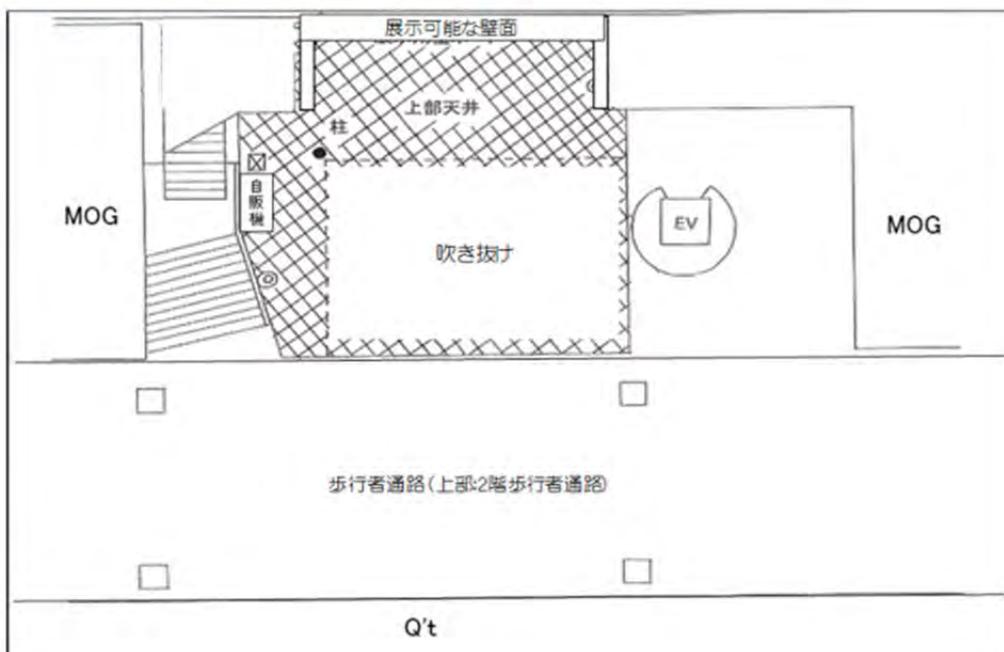
公序良俗を乱すことや政治活動、宗教活動を同所で行うことなどについて利用制限を設けていますが、それ以外は出来るだけいろいろなことに使っていただけるようにしました。

その後、壁面にパネルを設置し、絵画や写真などの展示も出来るようにしたことから、名称を「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」と呼ぶことにしました。

【位置図】



宝くじ売り場から見た
プラザ・パフォーマンス・ギャラリー



【プラザ・パフォーマンス・ギャラリー平面図】

③賑わいの創出と憩いの提供

平成 29 年には、設置物の劣化などからリニューアルを施しました。展示用パネルはピクチャーレールに設置出来るようにして自由度を上げ、さらに天井から作品を吊り下げられる装置も設置しました。

また、それまでのコンクリート壁面を板張りに変えて、温もりを感じられる空間にしています。憩いの場としても引き続き使ってもらおうということですが、デザインのねらいなどについては、次章で述べます。

同ギャラリーに立ち寄ってくれる人たちを見ていますと、小さなお子様連れのお母様などのほか、背広姿の方も結構いらっしゃいます。缶コーヒーを片手に、パソコンを開いたり、ホッと一息という姿を見ますと、このような場所の提供もセンター地区には必要だと改めて感じられます。



(2) これまでの取り組み

①地域との連携、大学との連携

プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの利用状況は決して多くはありません。一般の方々による出展で常に予約が埋まっているような状況はありませんので、ホームページやチラシでの利用案内のほか当財団としていろいろ工夫をしているところです。

その柱となるのが、他団体や大学等との連携による取り組み。写真や絵ハガキ、川柳などのサークル活動に声をかけ、「人前での展示は、ちょっと…」という方々を後押しして、展示の時期から逆算して作品の準備に取りかかってもらったりしています。

また、この場所をご覧になられた方が、その様子をスケッチされてご自身のブログに載せられ、そのことをきっかけにその後も作品の出展や様々なプロジェクトでご協力いただくようになったこともあります。

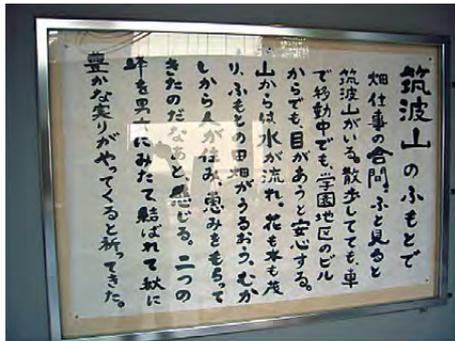


さまざまな取り組みを行っている
この場所が…



ステキな絵になって
ブログで紹介されました

中には、小型のねぶたを制作から作品展示までを通して見てもらおうという取り組みもありました。青森出身で、つくばなどで活躍する若手デザイナーが、制作自体オープンにして数週間かけて段々に完成させていく様子を、作品づくりに込めた思いとともに披露しました。



① 同所で制作をスタートし、完成した作品は、



② 筑波山のふもとにある小学校や民家を経て、



③ 筑波山神社でも飾られたことがありました。

また、教育機関との連携にも取り組み、特に筑波学院大学とは共同で作品展示等を開催しています。メディアデザインを学んでいる学生の卒業作品の展示や授業の一環として本ギャラリーを大いに活用していただいているわけですが、学生さん達にとっても、学内での発表だけでなく、外部を活用したこういった取り組みは、社会との接点を持てる貴重な場となっているようです。



見学者の前で、自分の作品について説明する学生



自分の作品について地元ケーブルテレビの取材を受けることも

②利活用状況（概要）

プラザ・パフォーマンス・ギャラリーでの取り組みについては、便宜上、三つのタイプに分けて整理しています。

一つ目は、地域の方などに申し込んでいただいで自由に使っていただくもので、いわゆる「一般出展」と呼んでいるものです。

次に、一般出展だけですと展示等をしていただける方はそう多くないものから、当財団が共催者になって外部の方と一緒に展示や発表などを行っていく「企画展」というものも頻繁に実施しています。

そしてあと一つが、自らが実施する「当財団プロジェクト」。季節感やこの地域の風習などを意識して、当財団職員が部署の垣根を超えてチームを組んで企画から実施までを行っています。中でも門松づくりや大型の生け花などは職員だけでは上手くいきませんので、地元の門松づくりの名人やお花の先生をお呼びして、指導を受けながら作り上げています。

また、大学生が本ギャラリーで発表することで社会との接点を持てるいい機会になっていることを前述しましたが、当財団職員にとっても通常業務ではなかなか知り合うことのできない方々との交流は、見聞を広めるだけでなく、少々大げさにいいますと、職員としての社会的な使命感を培うことにもつながっています。



地元竹名人にご指導いただいで門松づくり

次頁からは具体の利用状況をご紹介します。

③-1 利活用状況 (平成22年～平成29年までの主な事例)

【一般利用】 空間の活用

●主に空間全体を活用した利用方法。行政や市民活動団体、個人のアーティストなどが活用

名称	ロボット特区キックオフセレモニー
利用者	つくば市
	
名称	竹アート 竹で作る花器と生け花ワークショップ
利用者	竹アート実行委員会
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>←「マイ花器づくりWS」 竹を使った花器づくり</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>「マイ花器で生け花WS」→ 草月流師範の先生による生け花教室 を開催</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>	

【一般利用】 空間の活用

名称	ねぶたの技法でつくる「筑波山」展示
利用者	つくば市民
つくば市在住のデザイナーが一から作り上げた、ねぶた技法の「筑波山」	



←骨組みづくり

針金を使い、骨組み制作

和紙の貼り付け→

一枚一枚丁寧に骨組みに貼り付け



完成！ 色付け、仕上げ、点灯

霊峰筑波山と、その恵みである福来(ふくれ)みかん、たわわに実る稲穂等が、豊かな“つくば”を感じさせる作品



【一般利用】 パネル展示

●つくば市にある保育所の作品や市民団体の絵手紙や川柳などの作品を約1か月交代で展示。

◆子ども作品展示



◆ポスター展示



◆川柳発表展示



◆ 絵手紙展示



◆ 写真展示



◆ 書道展示



◆イラスト展示



◆切り絵展示



◆子ども絵画展示



【企画展】 《大学連携》

●年3回～4回季節に合わせたタペストリーを展示

タペストリー展示

概要：筑波学院大学学生デザインのタペストリーを季節ごとに展示

展示期間：平成25年1月～平成29年5月





【企画展】 《大学連携》

●期間限定展示

名称	「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」 空間デザインコンペティション
実施年度	平成 27 年度 平成 28 年度、平成 29 年度
概要	筑波学院大学学生によるプラザ・パフォーマンス・ギャラリーにおける空間デザインのコンペティションを実施。 作品は、一般市民による一般投票と審査員による審査を実施。優秀作品についてはプラザ・パフォーマンス・ギャラリーに一定期間展示。

実施写真



一般投票展示 (H27 年度の例)

好きなデザインの作品3作品を選んで投票



授賞式 (H28 年度の例)

グランプリに選ばれた作品は1か月間展示



授賞式 (H29 年度の例)

優秀賞3作品を1か月ずつ展示

展示作品の一部

平成 27 年度グランプリ タイトル「親子クジラ」



平成 28 年度グランプリ タイトル「金魚すくい」



平成 29 年度 優秀賞 タイトル「夏の枯山水」



平成 29 年度 優秀賞 タイトル「季節の移ろい」

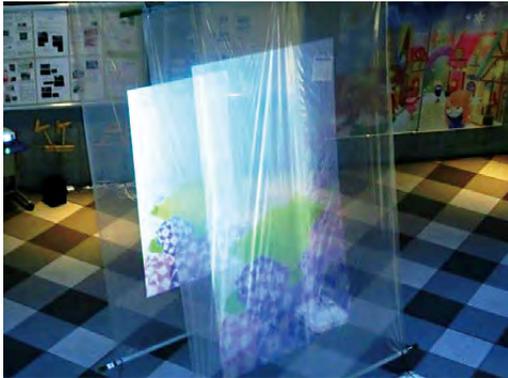


平成 29 年度 優秀賞 タイトル「鮮やかな秋の中に」



名称	筑波学院大学卒展作品展示「デジタルサイネージ」
実施年度	平成 27 年度
概要	筑波学院大学の平成 27 年度卒展作品の第 2 会場としてプラザ・パフォーマンス・ギャラリーで、プロジェクターと透明なスクリーンを使用した「デジタルサイネージ」を実施。

実施写真



【企画展】 《地域連携》

●つくばセンター地区活性化協議会イベントへの参画

名称	つくばセンター地区探検隊 クイズラリー
実施年度	平成 25 年度
概要	つくばセンター地区活性化協議会が主催するセンター地区の秋のイベント「つくばセンター地区探検隊クイズラリー」のミッションポイントの1つとしてパネルにクイズを展示

実施写真



【財団プロジェクト】 《空間演出》

◆季節ごとの飾りつけと大型生け花

春



職員の手作りによる空間づくり



天井には竹を利用し大きな「月」と「雲」をイメージしたオブジェを展示



夏



職員がチーム対抗で製作した「七夕の吹き流し」の展示

秋



冬



【財団プロジェクト】

◆門松づくり

地元の竹名人の指導のもと職員たちによる門松づくりの様子



門松づくりは、
竹の切り出しや土台作りから



③-2 リニューアル後の利活用状況 (H29年10月～現在)

【財団プロジェクト】

名称	リニューアル記念ミニイベント 「ハッピーハロウィンお菓子プレゼント」
概要	ギャラリー全体にハロウィンの飾りつけを行い、10月31日のハロウィン当日にギャラリーに関するアンケートを実施。 アンケートに回答した方にハロウィンのお菓子詰め合わせをプレゼント。

実施写真



空間全体にハロウィンの飾りつけも

【一般、大学、財団の合同プロジェクト】

名称	プラザ・パフォーマンス・ギャラリークリスマスウィーク		
概要	大学連携によるクリスマスプロジェクト上映期間中に一般利用による音楽演奏会を開催。併せてプラザ・パフォーマンス・ギャラリーについてのアンケートを実施。		
【大学連携】 大学生制作による「クリスマスプロジェクト上映」	【一般利用】 クリスマスエレクトーンパフォーマンス	【財団プロジェクト】 音楽演奏終了後にアンケートの実施	
ツリー型のスクリーンにクリスマスを題材とした学生制作のプロジェクト映像を投影。 クリスマスシーズンに合わせて12月18日～12月25日まで毎日実施。	クリスマスプロジェクト上映最終日に「音の宝箱つくば」によるエレクトーン演奏の実施。 第1部 12:00～13:00 (ランチタイム) 第2部 16:30～17:30 (大学連携企画のプロジェクト上映とコラボレーション)	アンケートに回答した方にクリスマスプレゼントとして、お菓子をプレゼント	

実施写真



1人1分で映像を制作した約15分間の映像を繰り返し投影

実施写真



空間全体にクリスマスの飾りつけ



第1部の様子



第2部の様子

(3) 今後の課題

以上、これまでの取り組みをまとめましたが、いろいろと課題も見えてきました。

まず、一つ目は、平成 24 年から竹をモチーフに空間を設えてきましたが、頻繁にメンテナンスをしないと、すぐに劣化してしまうことです。また、周囲のコンクリート壁も時とともに汚れが目立ってきましたので、この機会にしっかりとリニューアルしようということになりました。

さらに、大型のタペストリーを天井に展示する際などの、安全性の確保と作業効率アップのため、新たな機材等の設置も必要となってきています。

普段は憩いの空間として、ほっと一息つけるような場としながらも、賑わい創出、情報発信としても活用できるスペースという基本コンセプトを、よりしっかりと打ち出していくリニューアルを実施していくことになりました。

これまでも大学連携などでお世話になっている筑波学院大学・高嶋啓准教授にデザインをお願いし、その第一弾が完成しました。このことにつきましては、第 2 章で高嶋氏に記述していただきます。

もう一つの課題は、なかなか認知度が上がらないことです。せっかくリニューアルを施しましたので、より多くの方に使っていただき、まちの活性化に少しでもお役に立てれば、という思いで認知度向上策に着手したところで、このことにつきましては、第 3 章で述べることにします。

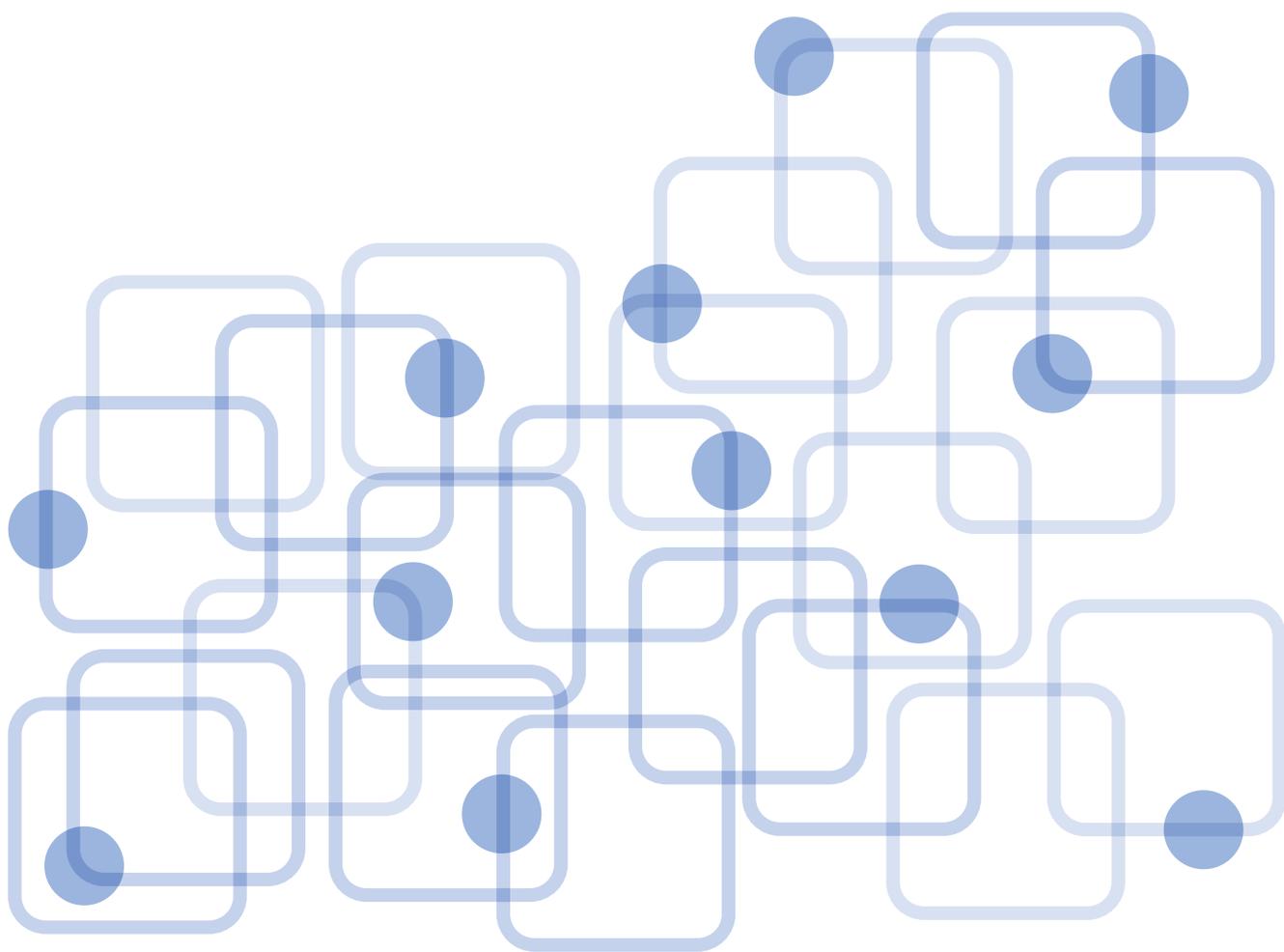
第2章 プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの リニューアルのねらいとそのデザイン

筑波学院大学

経営情報学部 ビジネスデザイン学科 准教授

地域デザインセンター委員

高嶋 啓



プラザ・パフォーマンス・ギャラリーのリニューアルのねらいとそのデザイン

1 リニューアルのねらい

プラザ・パフォーマンス・ギャラリーは、MOGの1階部分に位置し、さまざまな展示、ワークショップ、パフォーマンスなどのイベントを開催してきました。平成24年からは、筑波学院大学経営情報学部メディアデザインコースの学生によるタペストリーの常設展示や、希望する団体や個人などによるパネル内展示が無料で楽しめるオープンギャラリーとして利用されてきました。



平成24年当時のプラザ・パフォーマンス・ギャラリー

また同ギャラリーは、オープンスペースとなっているので、つくばクレオスクエアなどの周辺商業施設へのショッピング利用者や通勤通学で通りがかる歩行者が、ベンチで一息ついたり、飲食したりすることもできる休憩スペースのような役割もあります。

しかし以下の問題点により、ギャラリー利用者の利用満足度が低いのではないかと考え、新たなデザインテーマとともにリニューアルの提案をすることにしました。

(1) 場所としての問題点

まず、ギャラリー壁面の RC(鉄筋コンクリート)表面は築年数とともにくすみが目立ち、日があまり差し込まない奥まった場所のために薄暗く、展示スペースとしての役割が薄くなってしまっていました。そのため、ひっそりとしていてあまり人目を引かないこともあり、通勤や通学のために通行する人々や、商業施設利用者の多くは展示に目を向けないことが多いように感じました。さらに、天気が良く日差しの強い日ほど、日陰になっている展示部分とのコントラストが強く、展示の色味が沈んでしまうように見えたために、全体的に暗い印象がありました。



リニューアル前のプラザ・パフォーマンス・ギャラリー

(2) 展示施設としての問題点

次に、壁面でもっとも人目を引く位置に設置されてあった展示パネルにも問題点がありました。展示パネルのメリットは、施錠可能という面と、雨や風などに左右されず、保安上も安全に展示可能という面があります。しかし各パネルは、横 150cm、縦 100cm の大きさで、奥行きも 2cm 程度しかないため、平面での展示に限られ、枠の中に展示される性質として変化になかなか気がつきにくいといったことも展示をあまりアピールできない要因となっていました。そのため、歩行者が内容の違いに気がつくことが少なく、「あまり変化がないのではないか」といったイメージを与えてしまう可能性がありました。



展示パネルスペース

また、右壁面に常設されたタペストリーの展示スペースは、縦 2m、横 2m と大きく華やかさはあるものの、壁面右奥の角位置にあるため、スペースにおいてもっとも薄暗く沈んで見えるために、あまり人目をひくことはありませんでした。雨天や曇りの日や夕方には薄暗く、晴天の日中などは日向と日陰のコントラストが強いため、より薄暗い印象を受けてしていました。



常設のタペストリー展示スペース

(3) 竹飾りの問題点

同ギャラリーでは、空間演出の一つとして竹飾りが常設されていました。竹飾りは、設置から 3 か月程度は青々とした青竹の美しさが際立ちますが、徐々に青色から褐色に変化していきます。褐色化した竹飾りは、表面が経年劣化し黒ずんだ RC（鉄筋コンクリート）の灰色と合わさり、訪れる人々にマイナスのイメージを与えてしまうことがしばしばありました。

また、竹飾りは、切り出し、運搬、加工、設置と数段階に分けて非常に手間がかかり、手作業での熟練技術も必要となるため、常に綺麗な状態に保つには、大変な労力とコストが掛かることも問題点の 1 つと言えます。



経年劣化した竹飾り

(4) 天吊展示に関する問題点

天井部には、様々な形状の常設の竹飾りや、期間限定で展示する大型タペストリーなどを設置しています。大型タペストリーによる展示では、3m 以上にもおよぶ長尺のタペストリーを RC 天井部に設置されたアンカーを利用して、ワイヤー等によって上部より吊るしています。



天井部への飾りつけ



天井部に備え付けられたアンカー

展示作業は大型の脚立を使用して数名がかりで行う必要があり、展示物の水平や位置決めを行う際に大変手間がかかりました。そのうえアンカー位置は変更できないため、アンカーの無い位置への展示作業は、アンカーとアンカーの間にワイヤーを通し展示を行っていました。そのために、展示物を変更するためには、再度脚立を使用して一度固定されたワイヤーを取り、展示物を下ろしてから再度別の場所に展示を行うといった手間がかかりました。

また、ワイヤー展示の場合、重量のあるものでは展示が不可能なために、軽量の展示物に限定されるといった制約がありました。



大型タペストリーの展示

(5) 大きすぎる看板

ギャラリー壁面上部に設置されたプラザ・パフォーマンス・ギャラリーの看板は、利用者や、通り掛かりの人々などに、名称を覚えて欲しいという思いから幅 5m という大きさにデザインされていました。しかし、その大きさのために展示内容によっては看板と展示が重なることによって視覚的にうるさく感じさせてしまうこともありました。

さらに、看板の背景色が青いため、半屋外というギャラリーの特性から、冬季など気温によっては寒々しく感じさせてしまう可能性もありました。

また、看板の大きさに反して、商業施設内を通行している歩行者へのアピールはあまりできておらず、認知度は低いと言えます。



「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」看板

以上5つの問題点を解決し、展示スペースとしてだけでなく様々なイベントやワークショップなどに活用される場所として、また、立ち寄り易い憩いの場として人々が集うオープンギャラリーになるよう、リニューアルのデザインテーマを考えました。

2 リニューアルのデザイン

(1) デザインテーマ

近年、代官山・恵比寿・六本木など人気のエリアでは、「憩い」や「くつろぎ」を感じさせる施設が目立ちます。人々がゆったりと街を歩いたり、買い物をしたりしながら、カフェなどでくつろぐ姿を見かけます。

人々が多く集い、路面に面した店舗には木の温もりが感じられます。自然の中にいるような感覚の、何度でも訪れたいような空間演出を持った場所が雑誌などメディアで注目されています。

その施設には、ナチュラルな質感にこだわった木の壁面だけでなく、様々な形の木のベンチや植え込みなどが配置され、ショッピングで訪れた人々の気持ちをリラックスさせています。

通常、商業施設の看板の多くは、歩道に対して目立つような色彩や大きさで、訪れる人の注意を引くようにデザインされていますが、ナチュラルでありながらシンプルでスタイリッシュにも感じさせるようなデザインを用いたものも、多くの人に受け入れられるようになってきています。



木の温もりを感じさせる商業施設の壁面

そこで、今回のプラザ・パフォーマンス・ギャラリーのリニューアルにおいては、近隣の商業施設を利用する人々や通勤通学者が、この場所の前を通り過ぎる際に、くつろぎなどが感じられて、思わず立ち寄りたくなるような空間づくりを目指して、「アートとくつろぎのあるオープンギャラリー」をデザインテーマにしました。

プラザパフォーマンスギャラリー(PPG)改築の提案

アートとくつろぎのある オープンギャラリーの提案

人々がふと通りかかった時に、アートを楽しみながらくつろぎを感じられる、オープンギャラリーの空間を提案します。

(2) 具体的デザインの提案

① 木目や木の色味を生かした空間

RC(鉄筋コンクリート)での施工は、現代建築において多く見られますが、温かみに欠け、冬季などには寒々しさを感じさせることもあります。プラザ・パフォーマンス・ギャラリーも同様にRCによる建築です。

近年RCや鉄などの無機的なものではなく、木を用いた表現によって温かみを感じさせ、触れてみたくなるような空間が見直されてきています。2020年の東京五輪のメインスタジアムとなる新国立競技場は、大量の木材を用いた構造となることが決まっています。

また、近年、街並みそのものを開放感のある心地よい空間として、人々に「くつろぎ感」を与えるようなまちづくりが、特に都心などで多く見受けられるようになってきました。

このような状況も参考にしながら、プラザ・パフォーマンス・ギャラリーのリニューアル計画では、オープンギャラリーという開放感のある空間にふさわしく、くつろぎの空間を訪れる人に感じていただけるような、木目や木の色味を生かした壁面に囲まれたギャラリーを計画しました。

② 壁面素材

ギャラリー壁面の素材の選定には、いくつかの検討を行いました。当初の案として、南米産のハードウッドで、ウッドデッキなどでも多く使用されているイペ材、ウリン材等が候補に挙がりました。しかし、近年供給が不安定となっており、今後は希少材として価格高騰が懸念され、さらに素材の色の影響で全体のトーンが暗くなってしまうことから、これらの選択は取りやめました。同様の理由で、セラガンバツ材やアマゾンジャラ材などの木材も採用に至りませんでした。

そのような中、新たに注目したのがサーモウッドという、薬剤を使用せずに木材の耐久性を高めている素材です。「加圧水蒸気下高温加熱処理木材」と呼ばれる、屋外でも使用可能な耐久性向上処理を行ったもので、10年経っても寸法がほとんど狂わない安定性を持っています。

薬剤を使用していないことから、思わず深呼吸をしたくなるナチュラルな空

間を提案できるのではと考えました。

サーモウッドは、開発された外構木材で、主にデッキ材やフェンスなどに使用されています。

また、原材料であるパイン材、スプルース、バーチ、アスペンなどは、木材成長率が高い植林木ですので、環境に影響をあまり与えないエコロジーな素材です。

外壁に不向きな素材としては、パーティクルボード、ラワン合板、シナ合板、針葉樹合板などがあります。これらは、湿気による変形が起こりやすく、カビやすいという理由もあります。サーモウッドは、カビの発生条件である養分や水分（含水率）が極めて少なく、浴室などで使用しても表面にカビの発生源となる栄養分が付着しない限りカビの発生事例がないと説明されています。

また、価格帯もハードウッドに比べると、安価であることも決め手となりました。



サーモウッドを使用した施工例「おりづるタワー/デッキ」

広島県広島市 画像提供：越井木材工業株式会社

③ギャラリー壁面のCGによるデザイン

ギャラリー壁面のデザインを提案するにあたり、3DCGによるモデリングを行ないました（3DCGデザイン 佐久間星良氏）。モデリングにより、施工案による見え方の違いを視覚的に表すことができ、正面図だけではなく、様々な角度からの表現が可能となります。

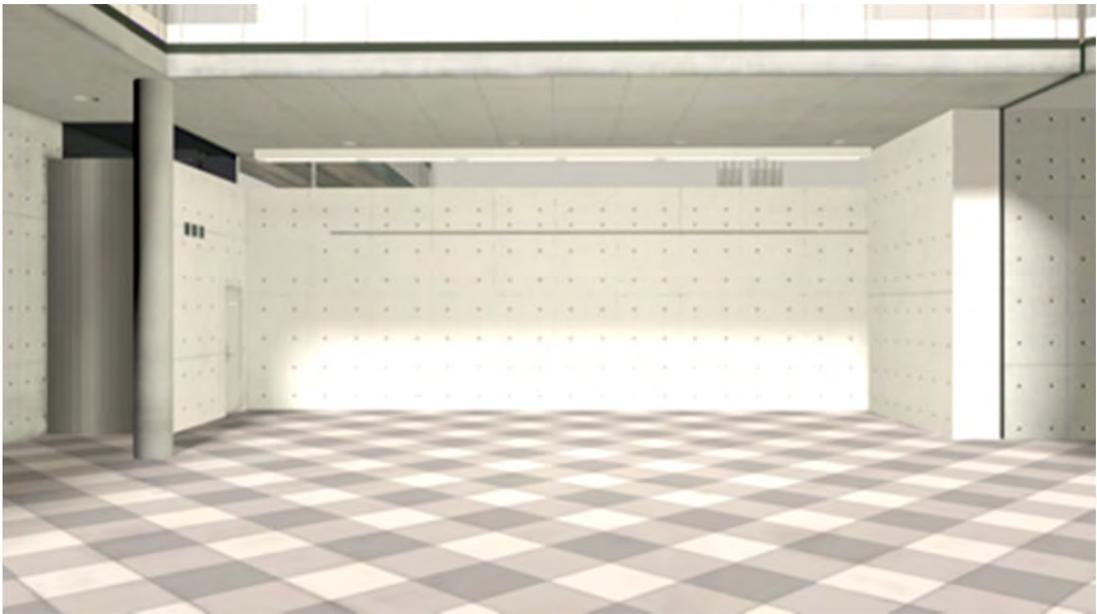
「アートとくつろぎのある空間」というテーマにより、A案はくつろぎを重視し、壁面をウッドパネルで覆う施工を提案し、B案はアートを重視した、ホワイトキューブをテーマに提案しました。

あえてB案も提案したわけですが、ホワイトキューブとは、一般のギャラリーや美術館などによく見られる、白い壁面や天井で覆われた空間を指した美術用語です。美術ギャラリーや美術館は、アート作品がもっとも美しく映えるように、ホワイトキューブの施設が基本となっています。

しかし、プラザ・パフォーマンス・ギャラリーは、アート展示も行いますが、様々なワークショップや演奏会など多用途に使用されるため、アート展示のみに偏った施設ではなく、「くつろぎ感」を重視したA案のウッドパネルを使用する案に決まりました。



空間提案 A : ウッドパネルによる壁面施工



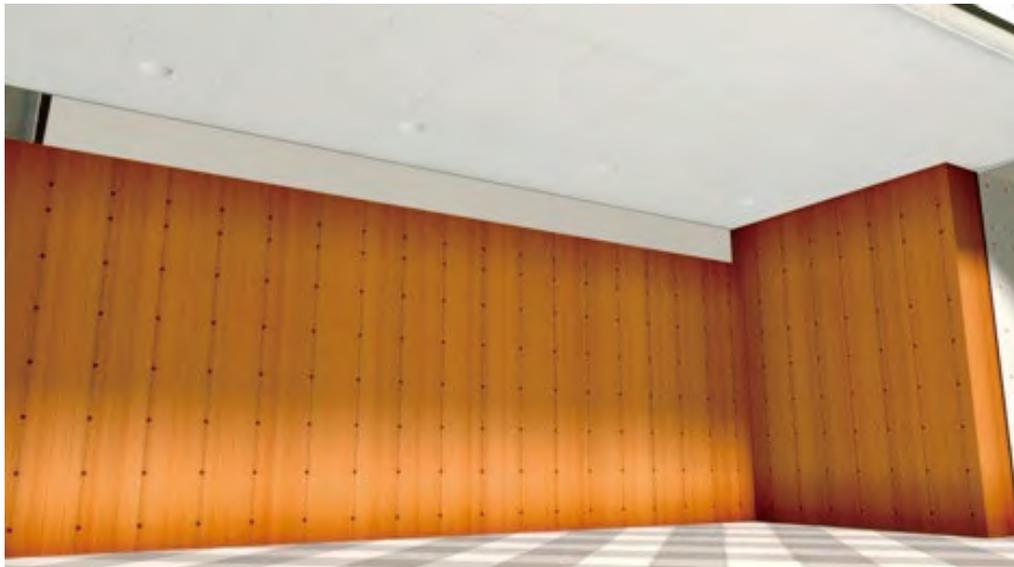
空間提案 B : 白色塗装による壁面施工

④天井部への白色塗装

壁面への白色塗装案はなくなり、ウッドパネルでの壁面施工となりましたが、天井部は日が当たらず経年劣化による黒ずみも見られるため、ギャラリー空間でもっとも薄暗い部分となっています。そのため、天井部への白色塗装の提案を行いました。



ギャラリー空間でもっとも薄暗い天井部位



天井部への白色塗装案

⑤昇降バトンの設置

天吊展示に関する問題点で記したように、大型タペストリー展示など空間を利用した天吊による展示などに対応するため、昇降型のボタン設置を提案しました。リニューアル前までは、大型の脚立を使用して展示の準備をしていましたが、危険であり、かなりの手間がかかっていたためです。

電動式で自動昇降タイプのボタンもありますが、配線等複雑な工事が必要でハイコストとなるため、手動式のものを提案しました。

ボタンは、1つ4mと長尺で、左右に2列ずつ合計4つのボタンを配置することとしました。この配列にすると、大型の展示物を、左右のボタンをまたぐように吊るすことも可能となります。



手動式昇降バトンの提案



リニューアル後の大型タペストリー展示予想

⑥植栽の提案

前頁の⑤までの提案については平成 29 年度に実現していますが、⑥以降の提案については今後の検討課題となります。

駅に隣接する商業施設に面していることもあり、買い物途中の施設利用者が休憩場所として、ギャラリーを訪れることが多くあります。そんな時に、木のベンチに座り、アートを楽しみながら食事をとったり、お茶を飲んだりできる、くつろぎの空間であってほしいと考えています。

ギャラリー壁面に使用しているサーモウッドによって、空間には木の匂いを感じられます。そこに、ナチュラルな木のベンチと、植栽があることによって、より一層「くつろぎ感」を感じてほしいと考えています。

しかし、プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの立地は半屋外で、直射日光がほとんど当たりません。この空間に植栽可能な植物は、ヒイラギナンテン、アオキ、ヤツデ、カクレミノといった日中でも日が当たらない環境下で生育できる植物に限られてきます。

また、イベントやワークショップを行う際には、植栽は移動が必要になってくるため、可動式にする必要があります。一つ一つが軽量の小型のプランターをコンテナにまとめることも可能ではありますが、小型が故に、水枯れを起こさないように夏場などは毎日の水やりが必要となります。

そのために、長期的なメンテナンスなどを考慮して、擬木（イミテーションツリー）での設置も検討する必要があります。利点として、生木の植え込みでは生育が難しい、見栄えのするベンジャミンやオリーブなどの中型から大型サイズの設置も可能となり、土を使用しないことにより、プランター全体の軽量化に繋がります。

植栽可能な植物の例



ヒイラギナンテン



アオキ



ヤツデ



カクレミノ



木製ベンチと擬木（イミテーションツリー）による設置例

⑦スポットライトによるライティング

プラザ・パフォーマンス・ギャラリーでは壁面だけではなく、様々な方向に展示物を置く可能性があります。また、ワークショップやイベント等で人の手元や人物全体を照らすことも必要です。

そこで、伸縮式で吊り下げ型のレール式スポットライトなどが適しています。伸縮式であれば、天井からの吊り下げタペストリーの展示にも、展示用台などに設置された立体作品などにも対応ができます。

また、スポットライト設置により、日中だけでなく夜間の展示などにも応用できるため、幅広い展示内容に対応することが可能となります。



伸縮式のスポットライトを下ろした状態によるライティング

⑧プロジェクター投影

近年、イベントなどによっては、映像の投影が必要となる場合が多くあります。多くの人が集う映画上映などを行う場合だけでなく、イベントでの一体感や、プロジェクションマッピングのようなメディア上映を目的に制作された映像作品を観覧者に体験してもらうような展示なども大変人気があり、需要が増加しています。

映像上映にはプロジェクターが必要ですが、この場所のシチュエーションを考えると、常設の場合は天吊型ということになるでしょう。

ただ、通常のプロジェクターでプラザ・パフォーマンス・ギャラリー壁面に上映する場合、壁面より 2~3m の間隔しか取れないため、16:9 のアスペクト比（長辺と短辺の比率）で幅 3m 程度のサイズの上映となってしまいます。狭いスペースにおいて、大画面で迫力のある映像を実現するためには短焦点レンズを搭載したプロジェクターが必要となります。



大型自立式床置きタイプスクリーン

また、プロジェクターの上映では、通常閉じられた空間で、照明をできるだけ落としてスクリーンに投影することによって、本来の綺麗な映像を観ることが可能になります。

プラザ・パフォーマンス・ギャラリーは、オープンスペースということもあり、自然光や商業施設からの灯りが常に入り込みます。一般向けのプロジェクターの能力では、はっきり映像を観ることができません。ある程度の光度を持ったビジネス・教育環境向けで、中型の会議室やホールなどで常設して使用されるようなタイプのものが求められます。

プロジェクタースクリーンの設備についての検討も重要で、150～180 インチ（アスペクト比 16:9）程度の大型のものが求められます。

会議室やホールなどで常設される場合、天井から吊るして昇降させるものが一般的です。しかし、展示壁面にスクリーンケースを常設することはここでは困難な環境であるため、折りたたみ可能な床置きタイプの自立型スクリーンが当施設には適しているでしょう。

⑨天吊りスピーカー

プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの周囲には様々な商業施設があり、いろいろなサウンドが通路にあふれています。

プラザ・パフォーマンス・ギャラリーでのワークショップイベントや映像投影などの際には、スピーカーやオーディオ設備をその都度設置しています。単発のイベントやワークショップであれば常時人がいるために問題ありませんが、無人となる場合は管理上に問題があります。

スピーカーについても、プロジェクターと同様、天井など上部空間を活用した設置が望まれます。

音楽やアナウンスといった音声のPR効果は、やはり有効でしょう。管理者のつくば都市交通センターからのお知らせなどを常時流しておくことも可能で、イベント開催時などでも歩行者の注意を引くことができます。



プロジェクター（左）とスピーカー（右）の設置例

⑩ギャラリー看板と新ネーミングの提案

ギャラリー内の看板は、前述したような問題点があります。リニューアル前はサイズが大きすぎ、展示などに重なって見えるため、見た目にうるさく感じさせてしまうこともありました。

例えば、写真の代官山の商業施設に見られるような、壁面に直接着色することで、看板と壁面の境界をなくし、自然にギャラリー空間のロゴとして認識してもらおうような手法もあります。



代官山にある商業施設の看板

また、そもそも「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」という名前の由来は、プラザの意味の「人通りが多い街中の広場」と、パフォーマンスなどを行うことも可能なギャラリースペースという意味が連なったものとなります。

ところが、残念ながら、この名称は前述のようにあまり認知されていません。その理由として、「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」は、名称としては長すぎるため、言葉にしにくく、略しにくいいため、口に出さないのではないかと考えられます。そこで、リニューアルによってギャラリーという美

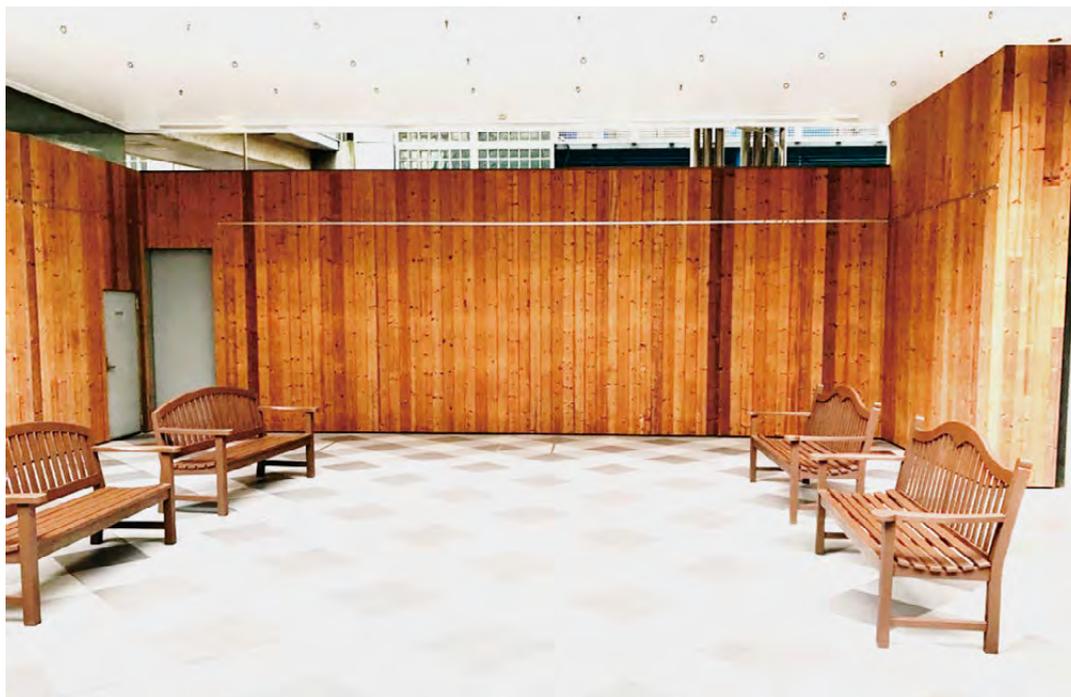
術展示をメインに思わせるものではなく、利用者に「自然」、「憩い」、「くつろぎ」を感じさせるスペースをイメージさせる新たなネーミングを検討しています。

ネーミングには、誰もがすぐにイメージしやすい言葉を選ぶ必要があります。例えば、「アートとくつろぎのひろば」、「憩いのアートスペース」、「TREE」、「PLACE TREE」、「SPACE WOOD」など、シンプルで言葉にしやすく、誰もがすぐに理解できる言葉があげられ、今後もいろいろな案を検討していきたいと考えています。

また、ネーミングを一般公募するなどして、それをきっかけに認知度を向上させ、愛着を持ってもらうというようなことも面白い試みかと思えます。

(3) 平成 29 年度現在の、リニューアル後の状況

平成 29 年プラザ・パフォーマンス・ギャラリーのリニューアルでは、天井部への白色の塗装および、サーモウッドによる壁面施工、手動式の昇降バトンの設置を行いました。サーモウッドによる壁面施工を行うことで、リニューアル前の RC が感じさせる都会的で無機質的な空間から、ナチュラルで暖かみのある空間になりました。



リニューアル後のプラザ・パフォーマンス・ギャラリー (施工：㈱ウリプカス)

また、天井部を白色に塗装することで、空間全体明るさが増し、今まで薄暗かった壁面上部の暗さが軽減しました。そのため、大型タペストリー展示のような上部展示を行うものは、作品が見やすくなったため、見学者が作品をより楽しめるようになっただけでなく、搬入および搬出時の作業が行いやすくなりました。

特に、8月から9月にかけて実施する、筑波学院大学経営情報学部ビジネスデザイン学科メディアデザインコースのタペストリー展示においては、縦3.5mの大型タペストリーを複数枚天井から吊り下げます。昇降バトンの設置により展示の自由度が上がったことで、これまで再現性が難しかった学生のさまざまなデザインにも対応ができるようになり、また、作業効率も上がり安全で正確な展示を行えるようになりました。今後は、この昇降バトンの特

性を活用した学生たちの新しい発想やアイデアにも期待したいと思います。



バトンを用いた大型タペストリーの天吊り展示



正面より撮影

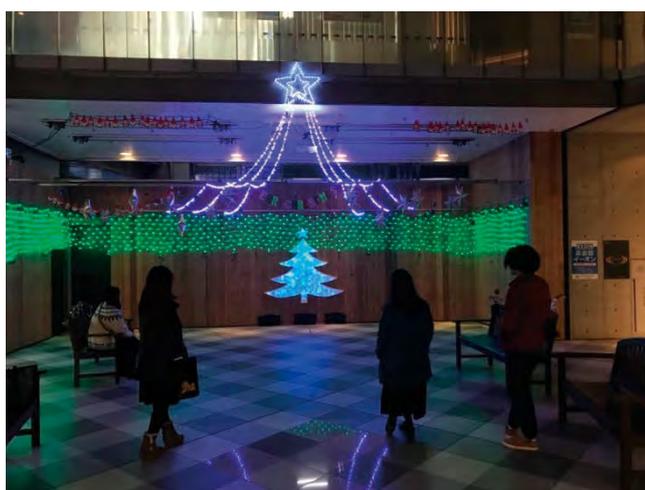
大型タペストリー展示

プラザ・パフォーマンス・ギャラリーでのクリスマスイベントとして、12月に開催された「エレクトーン パフォーマンス」と「クリスマス プロジェクションマッピング」は、リニューアル後に初めて行われたイベントです。プロジェクターが常設されていないため、天井部にプロジェクターを臨時で取り付け、壁面上部の空きスペースにスピーカーを設置し上映しました。音楽と映像を使った新しい取組みに、歩行者も足を止めて楽しんでくれました。

文中にもあるように、これから検討をすすめる提案もありますが、今後、音楽や映像のイベントに限らず、この場所を活用した取組みが益々増え、訪れる方々にとって「くつろぎ」の場所となるよう願っています。

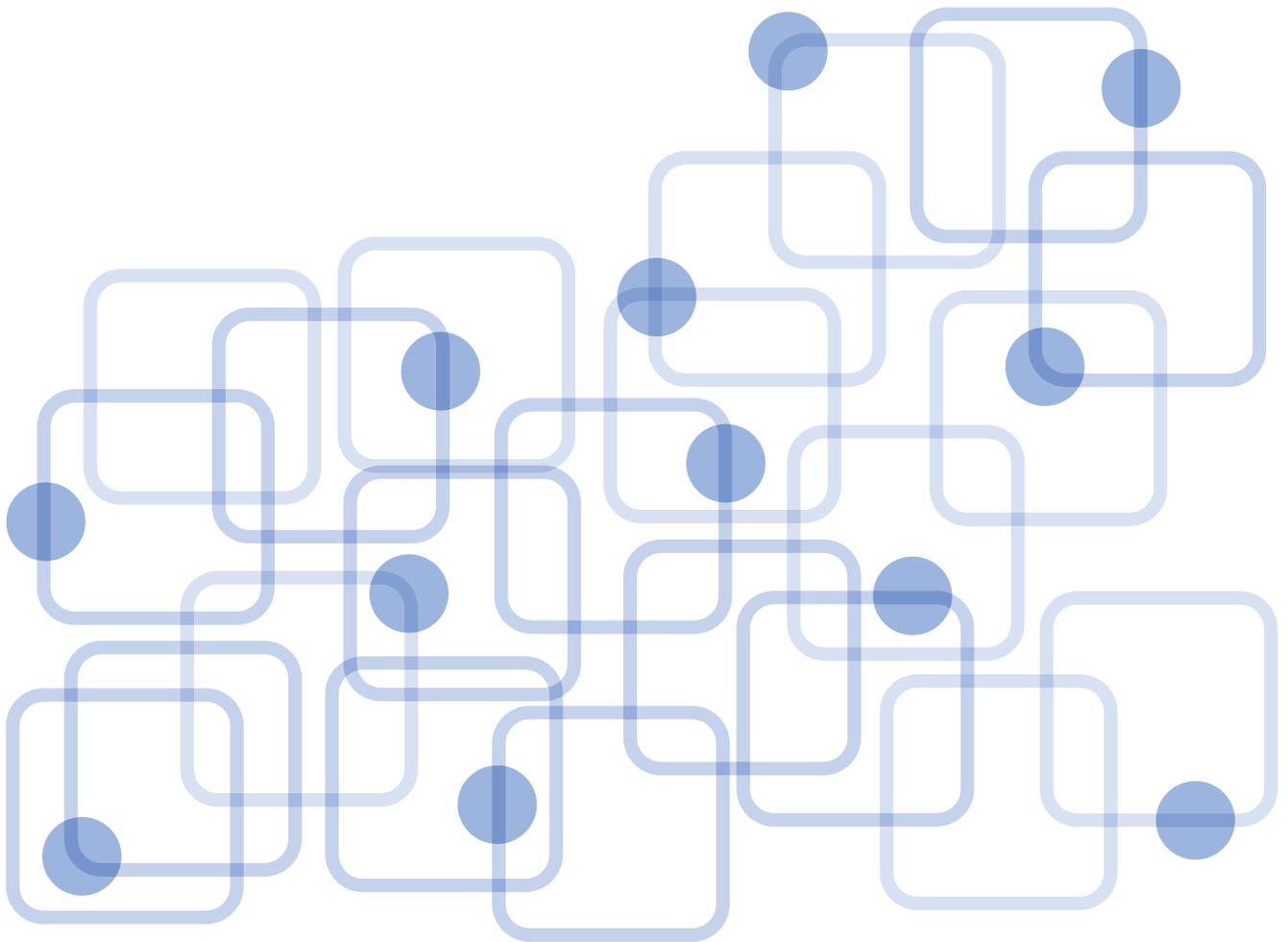


エレクトーン パフォーマンス



クリスマス プロジェクションマッピング

第3章 プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの
今後について



プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの今後について

1 認知度向上策

さて、プラザ・パフォーマンス・ギャラリーは、第2章で記述したとおり、リニューアルを施し、居心地の向上や作品展示における使いやすさ等を図りました。

しかし、当然ながら、それだけで諸々の課題がクリアできるわけではありません。

まずは、この場所の認知度を上げなければなりません。知ってもらい、目を留めてもらい、利活用してもらうことが必要です。

そこで、そもそも本ギャラリーのことは、どれくらい知られているのか、知っていたとして評価はどうか、実態把握調査を実施することにしました。

(1) ミニイベントを兼ねた実態把握調査

①調査概要

昨年の秋、ハロウィンのミニイベントを兼ねたアンケート調査を行い、次頁以降のような結果となりました。



プラザ・パフォーマンス・ギャラリー利活用向上のための実態把握調査結果（1）

1) 調査概要

名称	リニューアル記念 ハロウィンミニイベント
日時	平成 29 年 10 月 31 日(火)11:00～ ※お菓子詰合せ(50 個)がなくなり次第終了 終了時刻 12:30
概要	季節催事（ハロウィン）に合わせた 1 日限定のミニイベントでお菓子をプレゼント その際、アンケートを実施
告知方法	10 月 23 日～HP 及び現地看板、南 1 駐車場通路掲示板にて告知
目的	・リニューアルした PPG の認知度向上のため ・活用促進のための PR

2) 報告事項

イベント状況	<天候 晴れ 気温 17 度>
●11:00	テーブルを準備し、お菓子の配布開始 「ハロウィンのお菓子お配りしています」等の声掛け 簡単なアンケートをお願いし、リニューアルしたギャラリーの PR チラシを配布
●12:30	50+αのお菓子がなくなり終了
●アンケート回答数	: 50 名
	 
●男女比	は女性が多く、小さい子供連れ、高齢者ご夫婦、サラリーマンなど

アンケート結果 (サンプル 50)

【問 1】 本日のイベントを何で知りましたか？

- ①財団 HP・・・1名 ②現地を通りがかって・・・48名 ③2階通路掲示板・・・1名

◆現地を通りがかって知った人がほとんど

【問 2】 「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」を知っていましたか？

- ①知っていた・・・15名 ②知らなかった・・・35名

◆約7割が認識していない

【問 3】 タペストリーや大型生け花などの展示を見たことがありますか？

- ①見たことがある・・・19名 ②見たことがない・・・31名

◆普段から通っていても気付いていない人もいた。

【問 3-1】 「見たことがある」具体的な展示名

- ・タペストリー 12人 ・大型生け花・・・4人 ・イルミネーション・・・2人
・七夕飾り・・・2人 ・季節の飾り・・・1人 ・写真展・・・1人

【問 4】 「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」の印象はいかがですか？

- ①とてもよかった・・・22人 ②まあまあだった・・・21人

- ③あまり良くなかった・・・5人 ④良くなかった・・・0人 無回答・・・2人

◆ギャラリー空間については概ねいいイメージを持っている

【問 5】 ここまでの交通手段は？

- ①自動車・・・32人 ②バス・電車・・・8人 ③徒歩・自転車・・・10人

◆約6割の人が車で来ている

【問 6】 自由意見

《指摘等》

- ・PR不足 ・寂しい ・明るくした方が良く・・・3人 ・目立つようにした方がいい
・雨対策 ・床をステージにしたらどうか ・カフェを併設 ・机があった方がいい
・グリーンへの植え込みがあるといい ・敷居が高い

《イベント提案》

- ・子供と一緒に遊べるイベント、ダンスや音楽の発表会・・・3人 ・高齢者が楽しめる事

《好印象の意見》

- ・明るく圧迫感がない ・季節的なものが感じられていい。ぜひ続けて
・知っている人が少ないので、駅から続く展示、駅地下でのPR、気づいてもらえる音楽など
少し静かで楽しいイメージ、賑やかなイメージが定着すればステキだと思う

《この日のイベントに対する象徴的意見》

- ・これまで通り過ぎるだけだったので、今回イベントで初めて立ち止まりました

②アンケート調査結果

このイベントについては、財団のホームページのほか、現地に看板を設置し、また、隣接する南1駐車場の通路掲示板で告知しました。

その上で、この日のイベントを何で知ったかをたずねたところ、ほとんどの方が「現地を通りがかって」という回答で、ホームページと通路掲示板については、それぞれ1名ずつという結果でした。

イベント周知の効果的な方法について今後、検討する必要がありますが、そもそもプラザ・パフォーマンス・ギャラリーをご存知なのか、ということについては、以前から知っていた方は3割という状況です。

何をきっかけにして知っていただけたかという点、季節ごとの展示の大型生け花や筑波学院大学との連携で実施しているタペストリー展示などをご覧になって、ということであり、やはり注目していただけるような企画を今後も継続していくことが重要であるということがわかります。

そして、本ギャラリーの印象については、8割以上の方が「とてもよかった」または「まあまあだった」と回答されており、来ていただければ、知っていただければ、愛着を持っていただけるのではないかと思います。

ちなみに、どのような交通手段で本ギャラリーに来られているのかについては、「自動車」を利用されている方が6割以上となっています。「バス・電車」と「徒歩・自転車」がそれぞれ2割前後ということであり、この結果については、もう少し、いろんな観点から考察していかなければなりません。

一つ考えられるのは、「バス・電車」ご利用の方は時間的制約がありますでしょうし、「徒歩・自転車」ご利用は近隣にお住まいの方でしょうから、このイベントに行こうということではない限り、別の目的で動かれていると、立ち寄ってみようということにはなりにくいものと思われます。

「自動車」ご利用の方については、お買い物などのついで、店舗めぐりをされている途中で、このイベントをお知りになって寄ってくださった、という方が多いのでしょうか。

以上のような考察が、つくばのセンター地区の特性等を踏まえた小空間活用のための今後の取り組みのヒントになりそうです。

その他、自由意見においても貴重なご意見をいただきました。

「PR 不足」とともに「明るくした方が良い」というご指摘や、「子供と一緒に遊べるイベント」「高齢者が楽しめる事」というご提案。

「季節的なものが感じられていい」というご意見や、PR 方法として「気づいてもらえる音楽など」というアイデアもいただきました。

これらのことを踏まえて次につなげていくこととなりますが、この日の印象的なご意見は「これまで通り過ぎるだけだったので、今回イベントで初めて立ち止まりました」というものでした。

効果的な方法をいろいろと模索しながら、今回のようなミニイベントなどを地道に積み重ねていくことが重要であると考えられます。

(2) ミニコンサートとともに、2 回目のアンケート調査

①調査概要

ハロウィンのミニイベントに続き、今年のクリスマスに 2 回目の取り組みを行いました。

前回のアンケートでご指摘をいただいた中で、「明るくすること」と「音楽で楽しく」ということを取り組みのポイントにしています。

具体的には、筑波学院大学の授業の一環として、プロジェクションマッピングを約 1 週間上映し、クリスマス当日には「音の宝箱」というセンター地区で音楽活動を進めている市民グループによるエレクトーンライブを行ってもらいました。

PR についても、1 回目の時から手段を増やしました。当財団のホームページや駐車場の掲示板を活用するとともに、筑波学院大学関係者や音の宝箱、また、その他にも当財団が支援している市民グループ等のブログ、FB などで紹介してもらいました。

そして、SNS だけでなく、それら関係者によるチラシ配布と口コミもお願いしました。

1 回目とどう変わってくるか。

取り組みの概要とアンケート調査結果につきましては、次頁以降のとおりです。

プラザ・パフォーマンス・ギャラリー利活用向上のための実態把握調査結果（2）

1) 調査概要

名称	クリスマスウィーク（プロジェクションマッピングとエレクトーンパフォーマンス）
日時	平成 29 年 12 月 25 日(月)第 1 部 12:00～13:00 第 2 部 16:30～17:30
概要	季節催事（クリスマス）に合わせたイベント 19 日から作品展示しているプロジェクションマッピングの最終日にエレクトーンライブ（2 回公演）を実施。その際、アンケートを実施 お菓子 100 個準備
告知方法	12/7 HP 掲載 チラシ配布（キュートインフォメーション） 12/8 チラシ配布（音の宝箱関係） 12/11 現地看板、南 1 駐車場エレベータ内掲示 12/16 BiVi コンでの PR チラシ配布 12/19 GN ブログでの紹介 12/21 FB による告知（音の宝箱） 12/23 FB による告知（高嶋先生）
目的	・リニューアルした PPG の認知度向上のため ・活用促進のための PR

2) 報告事項

イベント状況 <天候 晴れ 気温 15 度>	
<p>【第 1 部】 11:00 エレクトーンセッティング開始 テーブルを準備し、お菓子の配布開始 12:00～13:00 エレクトーンパフォーマンス ●アンケート回答数 15 名 ●演奏者の知り合い、子供連れが多かった。また、BiVi コンに来たことがある方などもいた。</p> 	<p>【第 2 部】 16:00 プロジェクションマッピングスタート 16:30～17:30 エレクトーンパフォーマンス ●アンケート回答数 15 名 ●気温が低かったことも影響してか、昼間の公演より来場者は少なかったが、通りがかる人たちが足を止めてくれた。</p>  

アンケート結果 (サンプル 30)

【問 1】 本日のイベントを何で知りましたか？

①財団 HP・・・0名 ②現地を通りがかって・・・14名 ③掲示板・・・3名

④その他 (ロコミ・チラシ・SNS) など・・・13名

◆前回は現地を通りがかった人がほとんどだったが、ロコミ、チラシ、SNS 等を見てきた人が増えた

【問 2】 「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」を知っていましたか？

①知っていた・・・9名 ②知らなかった・・・21名

◆前回同様 7 割程度の方が認識していない

【問 3】 タペストリーや大型生け花などの展示を見たことがありますか？

①見たことがある・・・13名 ②見たことがない・・・16名

【問 3-1】 「見たことがある」具体的な展示名

・タペストリー 3人 ・大型生け花・・・4人 ・イルミネーション・・・1人
・七夕飾り・・・1人 ・竹のアート・・・1人 ・絵・習字・・・1人

【問 4】 「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」の印象はいかがですか？

①とてもよかった・・・19名 ②まあまあだった・・・10名

③あまり良くなかった・・・0人 ④良くなかった・・・0人 無回答・・・1人

◆前回より「とても良かった」と感じる割合が増加。空間については概ねいいイメージを持っている

【問 5】 ここまでの交通手段は？

①自動車・・・20人 ②バス・電車・・・4人 ③徒歩・自転車・・・6人

◆前回とほぼ同じ割合で約 6 割の人が車で来ている。

【問 6】 自由意見

《イベント内容について》

- ・1時間野外はきついが楽しかった。・音楽イベントにぴったりだと思った。寒かったけど楽しかった。
- ・とても楽しかった。また聴きたい。 ・このままでいい。素敵だった。
- ・もっと音楽のイベントがたくさんあったらうれしい。
- ・イルミネーションがキレイ。エレクトーン演奏もよかった。
- ・3D マッピングみたいのが良かった。来年もコンサートお願いします。

《PR について》

- ・宣伝のチラシ等告知を多めにしたほうがいい・・・3名
- ・積極的に周知活動をするとう盛り上がるのでは

《今後の希望》

- ・子ども参加型のイベント ・歌などの音楽演奏・・・2名 ・喫煙所

②アンケート調査結果

この日のイベントを知ったのは、前回は「現地を通りがかって」がほとんどでしたが、今回はそれと「口コミ、SNS」がほぼ同数という結果になりました。特に、口コミの効果は大きいようです。

本ギャラリーの認知度については、今回も「知らなかった」が 2/3 以上と圧倒的に多い状況ですが、逆に考えれば、こういう取り組みの積み重ねが「知っている」人を徐々に増やすことにつながります。

今回の回答でも、本ギャラリーに対して、ほとんどの方が好印象をお持ちであり、また、交通手段についても前回同様「自動車」ご利用の方が多い状況でした。

気候的には寒い状況でしたが、音楽や光と映像など、明るく賑やかな空間づくりを多くの方に気に入っていただけたようです。

このようなことから、地域や大学と工夫して取り組むことは、取り組み自体の有効性、面白さが実現できるとともに、その関係者の口コミや SNS 活用により認知度、集客力の向上にも寄与するということがわかります。

2 新たな取り組みの検討

最後に、これからの取り組みについて考えてみたいと思います。

①賑わいの創出

絵画や写真展などのほか、「音楽」を取り入れた取り組みを今後も継続していきたいと思います。

音楽の生演奏だけでなく、プロジェクションマッピングなど光や映像と音の組み合わせも好評をいただいていますので、地域や学校、団体等の協力を得ながら進めていきます。

小さなスペースではありますが、みなさんと楽しい空間をつかって、センター地区の活性化に微力ながらも貢献したいと考えていますので、出展や催事開催だけでなく、企画の持ち込みや提案などもお待ちしております。



光や映像、音を取り入れたイベント例

平成29年度ランタンアート（センター広場）

つくばセンター地区活性化協議会 HP より

②憩いの場の提供

つくばセンター地区に勤務するサラリーマンたちのお昼事情は様々ですが、イオンでお弁当を買ったり西武で昼食をとられていた方もかなりいらっしゃいました。

この2店舗が閉店となっても、そのほかにもクレオスクエアやBiVi、ホテルなど、まだまだお腹を満たしてくれる場所がありますが、やはり選択肢が減るのは寂しいものです。

そこで、プラザ・パフォーマンス・ギャラリーで何か出来ないか、と思案中です。飲食の提供は難しいかもしれませんが、買ってきたお弁当などを召し上がっていただける空間づくり、といったところから始められそうです。

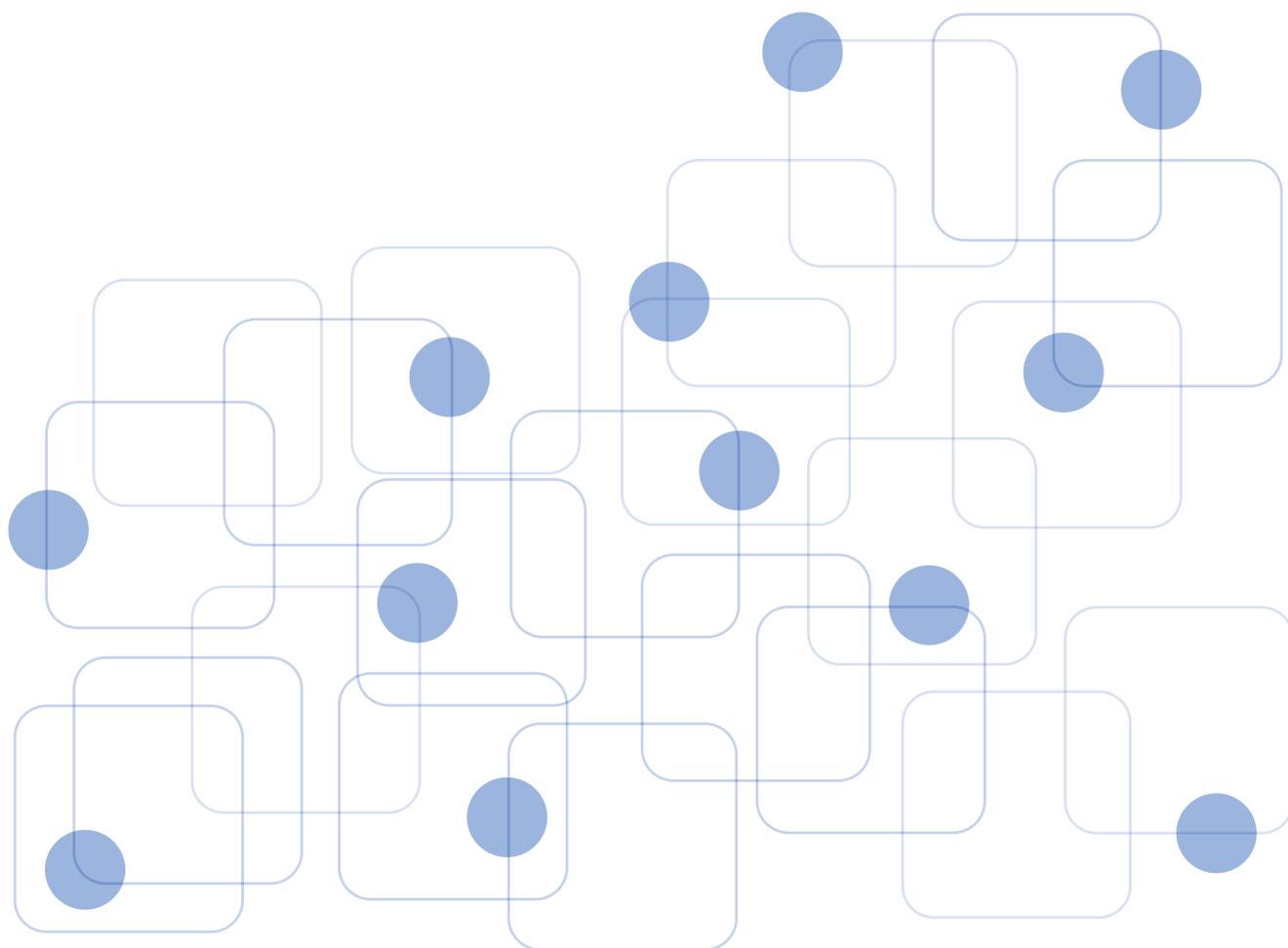
テーブルを準備して、ランチタイムに似合う生演奏が加われば、気候のいい季節で天気もいい時に限られますが、なかなか優雅なひと時になるのでは、と考えています。



休憩スペースは通りがかりの人も気軽に利用している
(つくば都市交通センター事務所ビル前)

参考

プラザ・パフォーマンス・ギャラリー利用規約



プラザ・パフォーマンス・ギャラリー利用規約

設置趣旨

つくばクレオスクエアのMOG1階にある「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー」は、地域で活動している方々による作品の展示や活動の発表場所として、また、企業や店舗のPRなどの場としても活用されることにより、憩いの提供と賑わい創出が図られるよう一般財団法人つくば都市交通センターが設けるものです。

利用できる場所・設備（ご利用方法についてを参照）

1. 広場（電気コンセント有り）
2. 天井（手動型昇降バトン 長さ4m×4セット）
※耐荷重 1つのバトンにつき25kgまで
3. 壁面（ピクチャーレール（正面、側面）、A1サイズ展示用パネル6枚 展示用ワイヤー有り）
※耐荷重：20kgまで
※画鋐等による壁面への直接展示は不可

利用できる方

利用規約を遵守し、つくばクレオスクエア内の店舗、通行人等の共感を得られる内容、方法で使用できる個人、グループ、地域活動団体、店舗、企業など

（使用例）趣味、研究、作品等の展示、発表 手品、音楽等のパフォーマンス
商品のキャンペーン など

利用条件

1. 利用期間：1日使用：9：30～21：00（連続した複数日使用は原則1週間まで利用可）
※作品展示のみに使用する場合は最大期間1か月まで応相談
1コマ使用：下記①、②、③の各時間帯
①9:30～13:00 ②13:30～17:00 ③17:30～21:00
※壁面、天井を使用する展示は、24時間展示可
※使用時間帯については応相談
2. 利用料金：企業、店舗、個人等による販売促進等営利を目的としている利用の場合
■1日当たり 平日 2,000円 土日祝日 3,000円
■1コマ当たり 平日 1,000円 土日祝日 1,500円
※連続した複数日（1週間以内）を希望する場合は応相談
公共団体、地域の活動団体、個人の発表展示等で営利を目的としない場合
■ 無料
※作品展示のみ使用する場合は最大期間1か月まで応相談
※その他利用条件、利用の仕方についてはお問合せください。

3. 利用申込み

申込みは、原則使用を開始する日の3か月前から1週間前まで可能です。

「使用申込書」に必要事項をご記入、末尾部署にご提出の上、当財団の許可が得られましたら利用料金をお支払いください。その後で「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー利用許可書」を交付いたします。

※申込者の本人確認のため必ず運転免許所等写真入り身分証及び印鑑をお持ちください。

利用上の制限

次のいずれかに該当するときは、利用の不許可又は利用許可の取消し若しくは利用の制限をすることがありますので、ご注意ください。

当ギャラリーの設置趣旨に反するとき。

- ・公序良俗を乱すおそれが認められるとき。
- ・政治活動又は宗教活動を行うおそれが認められるとき。
- ・当ギャラリー周辺の設備、備品等を損傷するおそれが認められるとき。
- ・当財団の業務執行に支障があるとき。
- ・その他当財団による当ギャラリーの運営上支障があると認められるとき。

搬入・搬出について

- ① 展示物の搬入・搬出は、原則平日に限ります。土、日、祝日、及び年末年始（12/28～1/3）は原則として搬入・搬出はできません。

※搬入・搬出の際は、職員が立ち会いますので、事前に末尾部署までご連絡ください。

- ② 展示で必要な看板等の設置は、使用者が行ってください。また、展示の際、当ギャラリーの設備等を損傷しないよう注意してください。

利用期間中について

- ① 当ギャラリーは昼夜とも無人で運営しておりますので、使用期間中の展示物の管理は、使用者の責任において行ってください。
- ② 音楽演奏など音の出る催しの際は、近隣店舗に配慮した方法で実施してください。
- ③ 展示物の破損、盗難、その他の事故については、当財団は一切の責任を負いませんのであらかじめご了承ください。高価なものや貴重な作品等を展示する場合には、使用者側で人員を配置するなどの必要な対策を講じてください。
- ③ 展示中設備等に不具合が発生した場合は、速やかにお知らせください。

受付・連絡先： 当財団 まち育て事業チーム ☎029-861-0500

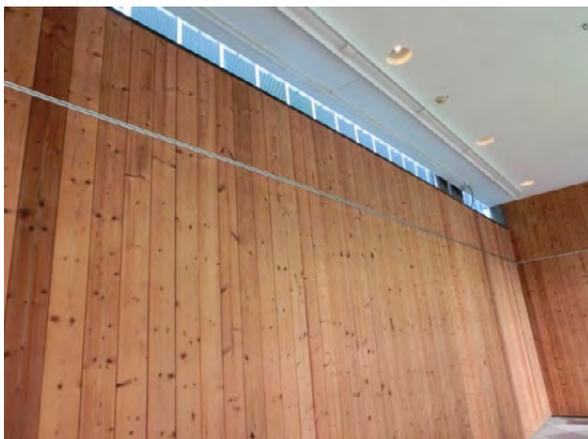
ご利用方法について

(広場) 広場スペースを使用してパフォーマンス、音楽演奏などに。



(壁面) 壁3面にピクチャーレールあり。絵や写真などの展示に。

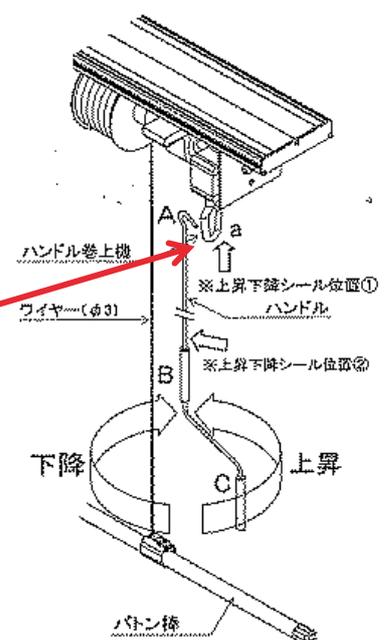
展示には、A 1パネル6枚まで貸出可能。その他展示作品についてはお問合せください。
ピクチャーレール上にフックがありますので、ワイヤーを掛けてご利用ください。



(天井) 手動型バトンを利用して簡単に展示ができます。

【手動型バトン操作方法】

- ①ハンドルの先端部Aをハンドル巻上機のフック部aに引っ掛けてください。
- ②ハンドルのB部を軸にしてC部を回してください。



貸出できる物品について

ご利用に際し、貸出できる物品は以下の通りです。

無料にて貸出いたしますので、お申し込みの際に「使用申込書」貸出希望物品欄にご記入をお願いいたします。

なお、破損汚損または紛失した場合は必ず当財団までご連絡ください。

【貸出品リスト】

<p>パネル (A1 サイズ)</p>	<p>6 枚</p>	
<p>ピクチャーレール用 フック</p>	<p>27 個</p>	 <p>※フックはレールに設置済み</p>
<p>ピクチャーレール用 ワイヤー</p>	<p>18 本</p>	<p>(画像なし)</p>
<p>丸イス</p>	<p>20 脚</p>	 <p>※黒 10 脚 白 10 脚あります</p>
<p>長テーブル</p>	<p>2 台</p>	

上記の物品以外はご自身でご準備ください。

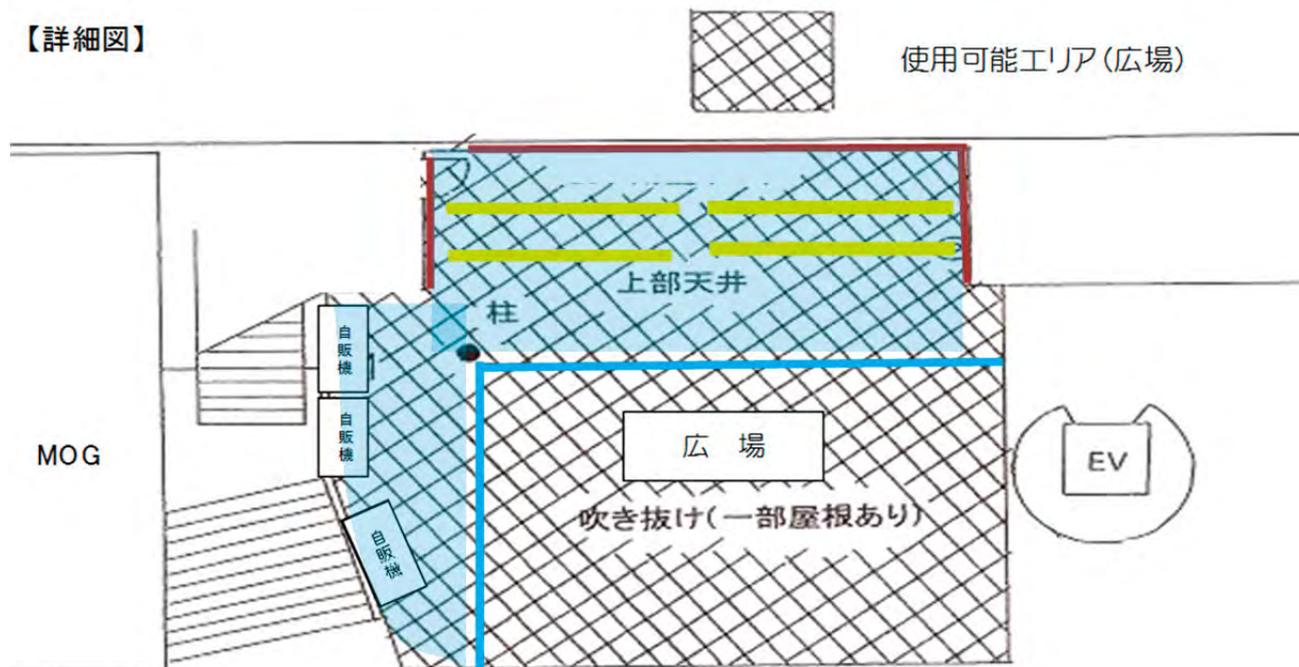
<プラザ・パフォーマンス・ギャラリー施設概要>

- 広場 約100㎡の半屋内空間
- 壁面 ピクチャーレール(正面 8m 側面 3m×2) 耐荷重 20kgまで
- 天井 手動型昇降バトン(長さ 4m×4 セット) 耐荷重 1つのバトンに付25kgまで
コンセント有

※その他の展示方法、設備等については、お気軽にお問い合わせください。



【詳細図】



プラザ・パフォーマンス・ギャラリー 使用申込書

使用 申 込 内 容	期 間	1日:平成 年 月 日～平成 年 月 日まで ____日間			
		1コマ:平成 年 月 日	使用コマ(該当欄に○印)		
			9:30～13:00	13:30～17:00	17:30～21:00
	目 的				
	利用内容				
	使用区域	①広場全体 ②天井 ③壁面 ※使用箇所○印			
	利 用 料	有料	円	無 料	
	搬 入 日	平成 年 月 日 午前・午後 時～			
	搬 出 日	平成 年 月 日 午前・午後 時～			
	使用者 <small>※申込者と異なる場合</small>	氏 名			
	連絡先				
貸出し希望物品	A1 パネル()枚 丸イス()個 長机()台 ピクチャーレールワイヤー()本 ※フックはピクチャーレールに設置済み				
<p>私は、「プラザ・パフォーマンス・ギャラリー利用規約」(別紙)の内容を遵守し、上記のとおり使用したいので、申込みいたします。</p> <p style="text-align: center;">平成 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">一般財団法人つくば都市交通センター 様</p> <p style="text-align: center;">申込者</p> <p style="text-align: center;">住 所</p> <p style="text-align: center;">連絡先</p> <p style="text-align: center;">氏 名</p> <div style="text-align: right; border: 1px dashed black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-left: auto;">印</div>					

【財団記入欄】

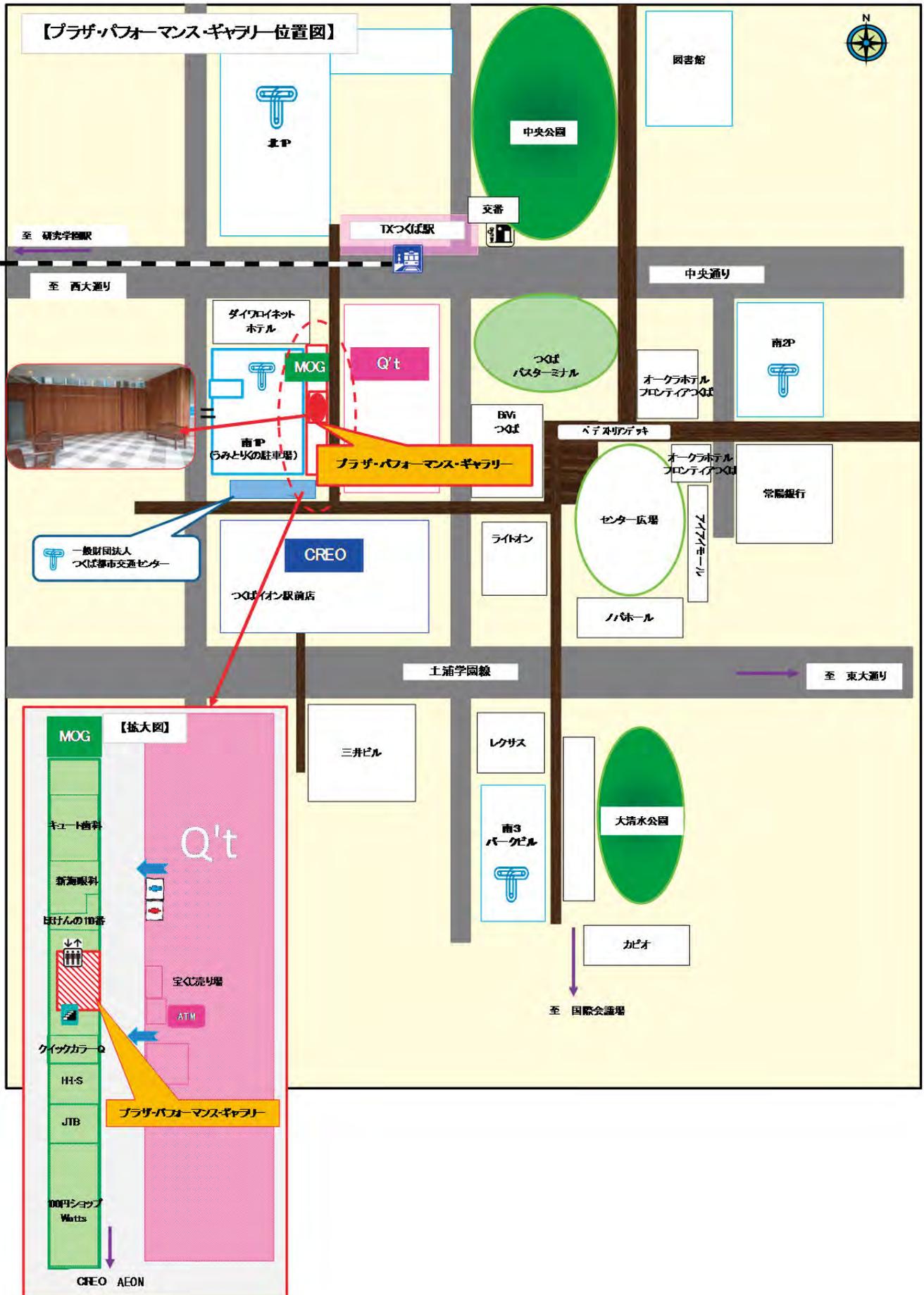
プラザ・パフォーマンス・ギャラリー 使用許可書 兼 領収書

利用料	有料 _____ 円	領収印	無 料
使用申込内容等	上記の使用申込書のとおり		
使用の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・展示物の管理については、使用者側が責任を持って行ってください。 ・展示物の破損、紛失等については、当財団は一切責任を負いません。 ・その他当ギャラリー利用規約(別紙)の内容を遵守すること。 ・申込み内容に変更がある場合は、使用日前に下記までご連絡ください。 		
上記の申込みについて許可します。 平成 年 月 日 運営責任者 一般財団法人つくば都市交通センター まち育て事業チーム 連絡先: ☎029-861-0500 (土日祝日対応緊急連絡先: 駐車場管理センター ☎029-855-5383)		申込者本人確認	使用許可印

※申込者の本人確認をしたときは、担当印を押印する

※使用を許可したときは、日付を記入し許可印を押印の上、本紙を複写して原本を申込者に渡してください。(複写は財団控)

<プラザ・パフォーマンス・ギャラリー位置図>



あとがき

このような執筆の機会をいただいた、つくば都市交通センターの宮本理事長をはじめ、プラザ・パフォーマンス・ギャラリーでの展示やリニューアルに携わっていただいた皆様に、深くお礼申し上げます。

初めてプラザ・パフォーマンス・ギャラリーに学生の作品を展示したのは、平成 24 年に遡ります。これまで、つくばクレオスクエアに隣接する、南 1 駐車場のサイン計画などを担当してきた経緯もあり、学生の作品を一定期間展示できる半屋外のギャラリーがあるけれども利用してみないかとお話をいただきました。筑波学院大学には、経営情報学部ビジネスデザイン学科にメディアデザインコースがあり、私はそこでグラフィックデザインを担当しています。授業などで学生が描いたイラストなどのグラフィックスをタペストリーとして展示する提案を行なったことが、当ギャラリーと関わるきっかけとなりました。そこから、竹のオブジェの提案や、3 か月という長期にわたり開催した大型タペストリー展の開催など、様々なプロジェクトを行いました。

平成 29 年には、プラザ・パフォーマンス・ギャラリーのリニューアルのお話をいただき、クレオスクエアの利用者や駐車場の利用者が、ギャラリーのベンチに座り休憩する際に、展示のグラフィックスやアートを鑑賞しながら、木の匂いに包まれたくつろぎの空間を感じることができる提案となりました。このリニューアルでは、新たに壁面を木材で覆い、平面だけでなく立体展示や様々なワークショップなどでも安全に飾り付けできるように、手動式の昇降ボタンを設置しました。これにより、本文「プラザ・パフォーマンス・ギャラリーの取り組みと課題」にある、様々なプロジェクトをより安全で迅速に執り行うことが可能になると思われます。

今後に向けて、植栽や設備などの拡充により、より多くの方がぶらりと立ち寄ることができて、アートとくつろぎを感じられる空間に育てていきたいと考えています。

そのためにも、近隣の小中学校の生徒たちが楽しみながら参加できるワークショップなどの提案や定期的なクラシック演奏会、映画上映会など、ギャラリーの認知度を向上させるための長期的なプランニングを提案していきたいと考えています。またそれが、施設全体の活性化につながっていければと願っています。

平成 30 年 3 月吉日

筑波学院大学経営情報学部ビジネスデザイン学科 准教授

地域デザインセンター委員

高嶋啓

